

専門分野

授 業 科 目 名		授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
看護学概論		講義 演習	1単位	30時間	1年前期	平田 昌美
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				
授 業 概 要						
看護師は対象の健康問題をその対象とともに解決していこうとする職業である。ここでは看護とは何か、看護師とはどのような職業なのか基本となる姿勢や考え方を学ぶ。「看護師になりたい」という気持ちを実際の行為として具現化する方法を学んでいく。その時に必要な知識として、「人間」「健康」「社会」「看護」を考え、現代社会の状況から看護の動向や課題、看護の法的基盤や看護倫理を学びます。看護する者としての倫理観・職業実践能力の育成を目標に、努力する姿勢を養うよう学修する。						
到 達 目 標						
1. 看護とは何か自分の言葉で表現できる。 2. 看護の動向、歴史及び社会状況から看護の課題を考え、説明できる。 3. F・ナイチンゲールの看護について説明できる。 4. V・ヘンダーソンの提唱する看護について説明できる。 5. 職業倫理及び看護倫理について自分の意見を述べることができる。 6. 今後の看護の展望について自分の意見を述べることができる。						
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習						
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当のテーマに沿って講義から復習・まとめをする						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				○
回数	単 元	内 容				担 当 教 員
1	看護とは何か	授業ガイダンス 「看護」についての思いを表現する、看護の対象とは				平田
2	看護の歴史 看護の変遷	看護の歴史、看護の変遷、看護の概念導入				平田
3	看護の概念①	【事前課題: 看護理論化の枠組みについてテキストを読む】 「人間」「健康」「環境」「看護」についてGW				平田
4	看護の概念②	【事前課題: 発表準備】 「人間」「健康」「環境」「看護」について発表とまとめ、看護覚え書Gメンバー発表				平田
5	ナイチンゲール 看護覚え書①	【事前課題: 「看護覚え書」担当箇所を読んでまとめる】 「看護覚え書」GW				平田
6	看護覚え書②	「看護覚え書」発表、まとめ 看護の基本となるものGメンバー発表				平田
7	ヴァージニア・ヘンダーソン看護の 基本となるもの①	【事前課題: 「看護の基本となるもの」担当箇所を読んでまとめる】 「看護の基本となるもの」GW				平田
8	ヴァージニア・ヘンダーソン看護の 基本となるもの②	「看護の基本となるもの」発表、まとめ				平田
9	看護の目的と機能 専門職業人とは	看護の目的と機能、専門職業人とは、チーム医療と看護				平田
10	ライフサイクルと健康	ライフサイクルとは、健康とは、健康と看護				平田
11	クリティカル・シンキング	看護とクリティカル・シンキング、問題解決思考				平田
12	看護と人権・倫理	看護と人権、看護における倫理、倫理ジレンマについて				平田
13	看護と国際化	国際的な健康問題、国際協力、文化を超えた看護の必要性				平田
14	看護の展望	EBNからEBPへ、看護の活動領域、看護の課題				平田
15	まとめ	授業の振り返り				平田

評 価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕 看護学概論 (医学書院) ナイチンゲール 看護覚え書 (現代社) 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン (日本看護協会出版社)
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
キャリアデザイン	講義 演習	1単位	15時間	1年後期	丸山 千恵 ・ 廣渡 大輔 ・ 松尾 有美 ・ 平田 昌美
実務経験のある教員による科目					

授 業 概 要

看護専門職として生涯教育への導入を図るとともに、看護を学ぶ学生として求められる自律性と社会人基礎力育成の基盤とする。医療はとどまることなく変化している。その変化する社会に求められる看護について考え、自分の未来について看護職者としてあるべきイメージを描き、そのためには何をすべきかを思考し、学修ビジョンを明確にし、生涯にわたって看護に携わる者として人格の涵養に努め、学び続ける意欲を維持し自己実現できる礎となるように学修する。

到 達 目 標

1. 現代社会に求められる看護について述べることができる。
2. 看護専門職の専門分野とキャリアについて説明できる。
3. 看護を学ぶ自己のキャリア形成について考えることができる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習: 該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						○

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	ポートフォリオの活用 現代社会と看護	ポートフォリオとは、ポートフォリオの活用方法(パーソナルポートフォリオ) 医師からの立場から、看護師の立場から	平田
2	キャリア教育と看護基礎教育	看護教育とは、本学での教育課程とキャリア教育のつながり 今自分が考えるキャリアとは	平田
3	看護職のキャリア①	専門職としてキャリア形成に必要な知識・技術・態度とは 看護職のキャリアとは	平田
4	看護職のキャリア②	保健師の立場から(いかにキャリアを形成していったかその過程)	丸山/平田
5	看護職のキャリア③	助産師の立場から(いかにキャリアを形成していったかその過程)	松尾/平田
6	看護職のキャリア④	専門看護師の立場から(いかにキャリアを形成していったかその過程)	廣渡/平田
7	学校生活と就職のデザイン	社会人基礎力、キャリア形成準備期、自己のキャリアデザイン	平田
8	まとめ	自己のビジョン・ゴールシート作成	平田

評 価	課題レポート(80点)、最終成果物(20点)
テキスト	なし
参考図書等	アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する (医学書院) キャリアストーリーをポートフォリオで実現する (日本看護協会出版社) 看護師のためのキャリアデザインBOOK (つちや書店)
留 意 事 項	

授業科目名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担当教員
看護コミュニケーションと学習支援	講義 演習	1単位	30時間	1年前期	永野 薫
実務経験のある教員による科目					

授業概要
コミュニケーションスキルは、患者のニーズを理解し、看護ケアにいかすため、患者－看護師関係を発展させるために重要な看護技術である。日頃、患者や患者・家族と接する際だけでなく、意思決定支援の場面でも必須であり、その重要性は増してきている。そのため、既習の人間関係論やカウンセリング論と関連させながら、看護コミュニケーションにおける実践的な方法を体験的な学習を通して学ぶ。また、効果的なコミュニケーション方法を用いながら健康に関わる学習を支援する看護技術について、基礎的な知識と実際を学ぶ。

到達目標
1. 看護におけるコミュニケーションの意義を述べることができる。 2. コミュニケーションの基本的構成要素と成立過程について述べることができる。 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本がわかる。 4. 効果的なコミュニケーション方法を用い、実践できる。 5. コミュニケーション能力向上のために、対人関係について自己分析する方法がわかる。 6. 看護における学習支援の目的・意義を述べることができる。 7. 学習支援の実際がわかる。

事前学習・事後学習
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む。 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				

回数	単 元	内 容	担当教員
1	コミュニケーションの意義・目的	コミュニケーションとは 看護・医療におけるコミュニケーション	永野
2	コミュニケーションの構成要素と成立過程	コミュニケーション手段 構成要素と成立過程 ミスコミュニケーション	永野
3	関係構築のためのコミュニケーションの基本	接近的コミュニケーションの原理 接近的行動の前提となる基本的な態度 接近的行動と非接近的行動	永野
4	効果的なコミュニケーションの実際	傾聴の技術 情報収集の技術 説明の技術	永野
5	コミュニケーションにおける看護実践	「あなたの話を聴いています」と伝えるためには(演習)	永野
6	コミュニケーションにおける看護実践	「あなたの話を聴いています」と伝えるためには(グループワーク)	永野
7	自己理解	プロセスレコードの目的・方法・活用方法 アサーティブネス	永野
8	自己理解	プロセスレコードの検討	永野
9	コミュニケーション障害への対応	言語障害・視覚障害・聴覚障害がある人との場面(演習・グループワーク)	永野
10	コミュニケーションの実践	「事例に基づきコミュニケーションをとろう」(演習・グループワーク)	永野
11	看護における学習支援	学習支援の基本となる考え方 看護師の役割としての学習支援	永野
12	学習支援における看護実践①	さまざまな場所で行われる学習支援: 個人指導・集団指導(演習)	永野
13	学習支援における看護実践②	さまざまな場所で行われる学習支援: 個人指導・集団指導(演習)	永野
14	学習支援における看護実践③	さまざまな場所で行われる学習支援: 個人指導・集団指導(演習)	永野
15	学習支援における看護実践④	さまざまな場所で行われる学習支援: 個人指導・集団指導(演習)	永野

評 価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ （医学書院）
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
生活援助技術Ⅰ	講義	1単位	30時間	1年前期	森下 鮎美
実務経験のある教員による科目	臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授 業 概 要						
看護技術の特殊性として、「技術の対象が人間である」ことが挙げられる。対象が人間であるため、それを全体として捉え、その技術を受ける人の反応全体の五感を通して感じ、根拠を踏まえて対象に応じた技術を適用することの意味を考える。 患者にとっての病床は、治療・看護を受ける場であるとともに、心身を休める、食事をとる等、様々な生活の場となる。個々の患者にとって、少しでも療養生活が送りやすく、快適な場であるように環境を整える技術および、苦痛の緩和・安楽の確保のための援助技術を修得する。 疾患などにより、日常生活動作に支障をきたし、これまで当たり前に行っていた生活を行うことができなくなる場合がある。そのため、活動の援助を通し、安全・安楽な移動・移送技術を習得する。						
到 達 目 標						
1. 感染防止のためのスタンダードプリコーションができる。 2. 療養生活が安全・安楽・快適に送れるように環境を整える(ベッドメイキング・リネン交換)ことができる。 3. ボディメカニクスを活用し体位変換ができる。 4.安全安楽な移動・移送ができる。 5. 療養生活が安全・安楽・快適に送れるための苦痛の緩和・安楽確保の援助ができる。						
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習						
事前学習:該当箇所を予習して授業に臨む。 事後学習:当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎			

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	環境調整技術①	療養生活の環境	森下
2	感染防止の技術①	感染とその予防の基礎知識 スタンダードプリコーション 感染経路別対策 感染性廃棄物の取り扱い	森下
3	感染防止の技術②	衛生的な手洗い 個人防護用具の着脱方法の実際	森下
4	活動・休息の技術①	よい姿勢 ボディメカニクス 体位	森下
5	感染防止の技術③	衛生的な手洗い・個人防護用具の着脱方法の実際 技術チェック	森下
6	環境調整技術②	ベッド周囲の環境整備・演習	森下
7	環境調整技術③	病床を整える(ベッドメイキング・演習)	森下
8	環境調整技術④	病床を整える(ベッドメイキング・演習)	森下
9	活動・休息の技術②	移動(体位変換・歩行・移乗・移送)	森下
10	活動・休息の技術③	移動(体位変換・歩行・移乗・移送)演習	森下
11	活動・休息の技術④	移動(体位変換・歩行・移乗・移送)演習	森下
12	環境調整技術⑤	リネン交換・演習	森下
13	環境調整技術⑥	リネン交換・演習	森下
14	苦痛の緩和・安楽の確保の技術	電法	森下
15	環境調整技術⑧	ベッドメイキング技術チェック	森下

評 価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)

参考図書等	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造[1] 解剖生理学（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器（医学書院）
留 意 事 項	技術の習得には反復練習が大切です。予習・復習を行い積極的に学びましょう。

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
生活援助技術Ⅱ	講義 演習	1単位	30時間	1年通年	坂本 智子
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要

疾病・障害など何らかの理由によって、普段通りの清潔・衣生活の維持が困難になった対象に、その人の普段の生活に近い方法、あるいは最も適した方法で清潔行為をし、その人らしい療養生活が送れるように清潔・衣生活を整える技術を修得する。

清潔・衣生活援助の基礎知識として、皮膚・粘膜の構造と機能、入浴・部分浴を中心とした清潔援助の効果と呼吸・循環器など全身への影響を学び、その人の病態に即した援助方法を選択するときの留意点について理解したうえで、具体的な援助技術について学習する。

身体の一部(あるいは大部分)を露出し、排泄の援助などでは家族にも晒すことのない部分をさらす必要があるため、個人のプライバシーが侵害されやすくデリケートな部分に踏み込む状況になる。対象者のプライバシーを保護する技術・態度を修得する。

人間にとって活動・休息の意義について考える。

到 達 目 標

1. 日常生活の援助(衣・清潔・睡眠・休息)について説明できる。
2. 皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響について説明できる。
3. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの清潔援助をプライバシーに配慮し実施できる。
4. 病床での衣生活の基礎知識を学び、対象の状況に応じて寝衣交換が実施できる。
5. 人間にとって活動と休息の意義について説明できる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む、課題学習提出。

事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				○

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	活動・休息援助	《睡眠・休息の援助》 援助の基礎知識 睡眠・休息の援助の実際	坂本
2	清潔・衣生活援助①	清潔の援助の基礎知識 援助の基礎知識 衣生活援助の実際	坂本
3	清潔援助技術の実際	入浴・シャワー浴・全身清拭・陰部洗浄の基礎知識	坂本
4	清潔援助技術の実際	演習 臥床患者の更衣	坂本
5	清潔援助技術の実際	演習 臥床患者の全身清拭①	坂本
6	清潔援助技術の実際	演習 臥床患者の全身清拭②	坂本
7	清潔援助技術の実際	演習 臥床患者の陰部洗浄	坂本
8	清潔・衣生活援助技術の実際	演習 臥床患者の保清①(全身清拭・陰部洗浄・更衣)	坂本
9	清潔援助技術の実際	演習 臥床患者の保清②(全身清拭・陰部洗浄・更衣)	坂本
10	清潔援助技術の実際	演習 手浴(ベッド上)・足浴(端座位・ファウラー位)①	坂本
11	清潔援助技術の実際	演習 手浴(ベッド上)・足浴(端座位・ファウラー位)②	坂本
12	清潔援助技術の実際	演習 洗髪	坂本
13	清潔援助技術の実際	口腔ケア・整容の基礎知識 援助の実際 口腔ケア(ベッド上)・整容①	坂本
14	清潔援助技術の実際	演習 口腔ケア・整容(ベッド上)②	坂本

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
15	清潔・衣生活援助技術	臥床患者の全身の保清【技術チェック】	坂本

評 価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)
参考図書等	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔12〕 皮膚 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 (医学書院)
留 意 事 項	事前学習を行い臨むこと。 講義後は反復練習を行い技術の習得を目指し自己研鑽すること。

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
生活援助技術Ⅲ	講義 演習	1単位	30時間	1年通年	倉元 聖子
実務経験のある教員による科目	臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授 業 概 要						
看護の対象となる人間の日常生活行動を理解し、安全・安楽・自立に考慮した援助を提供するために必要な基礎的知識を学ぶ。本科目では日常生活を振り返り、当たり前に行っている食事・排泄を意識することで、それらを人の手にゆだねなければならない患者の苦痛を考え具体的な援助方法を学べるように進めていく。						
到 達 目 標						
1. 人間にとっての食事・栄養の意義を知り、栄養状態・食欲・摂食能力の基礎的なアセスメントを理解できる。 2. 人間にとっての排泄の意義や生理的メカニズムを知り、排泄のアセスメント 3. 食事介助を通して、自分で食事ができない対象の気持ちを理解し、援助のあり方を考える。 4. オムツ体験を通して、対象の羞恥心に配慮し、尊厳を保った排泄援助とはどうあるべきか自分の意見を述べることができる。						
事前学習・事後学習						
事前学習: 該当箇所の教科書を熟読しておく。 事後学習: 教科書、ノート、資料を必ず読み返す。						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	看護技術の基盤	授業ガイダンス・看護技術の基盤	倉元
2	食事援助の技術	食事援助の基礎知識・食事のアセスメント・医療施設で提供される食事	倉元
3	食事援助の技術	食事援助の実際・誤嚥について	倉元
4	食事援助の実際 演習①	介助を要する食事援助 ①利き手が使えない対象	倉元
5	食事援助の実際 演習②	介助を要する食事援助 ①目が見えない対象	倉元
6	食事援助の技術	非経口的栄養の援助(経管栄養法・経鼻胃チューブ・中心静脈栄養)	倉元
7	排泄援助の技術	排泄の意義・看護に求められる姿勢 排泄のメカニズムとアセスメント	倉元
8	排泄援助の技術	自然排泄を促す方法	倉元
9	排泄援助の技術	自然排泄を促す方法	倉元
10	排泄援助の技術 演習③	ベッド上の排泄体験（オムツ交換）	倉元
11	排泄援助の技術	テーマ:「対象の羞恥心や尊厳を保った看護技術を提供するには」GW・発表	倉元
12	排泄援助の技術	導尿・膀胱留置カテーテルの管理	倉元
13	排泄援助の技術	摘便・ストーマ浣腸	倉元
14	排泄援助の技術 演習④(分割)	浣腸	倉元
15	総括	生活援助技術Ⅲのまとめ	倉元

評 価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)
参考図書等	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔12〕 皮膚 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 (医学書院)
留 意 事 項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
ヘルスアセスメントと記録	講義 演習	1単位	30時間	1年後期	倉元 聖子・柴岡 沙也加
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授業概要
看護師が看護ケアを行うためには、患者の全体像を把握し、それらの情報を分析・解釈して看護介入を決定する。そのために、フィジカルアセスメントを行い、患者の身体な状態の把握することは不可欠である。さらに、フィジカルアセスメントに加え、心理・精神的側面や社会的側面を評価し、健康上の問題を明確にすることで、適切な看護援助を行うことができる。本科目では、フィジカルアセスメントに関する内容を中心に基本的な知識と技術を学ぶ。

到達目標
1. ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションそれぞれの意味と関連性を説明できる。 2. フィジカルアセスメントに必要な基本的知識がわかる。 3. フィジカルアセスメントに必要な基本的技術を習得することができる。

事前学習・事後学習
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む。 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	ヘルスアセスメントとは	ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションとは フィジカルアセスメントに必要な技術	倉元
2	バイタルサイン測定と観察	バイタルサインとは 基準値の考え方 体温に関する基礎知識・測定方法 意識に関する基礎知識・評価方法	倉元
3	バイタルサイン測定と観察	脈拍・呼吸に関する基礎知識・測定方法	倉元
4	バイタルサイン測定と観察	血圧に関する基礎知識・測定方法	倉元
5	測定結果と報告 記録について	測定結果の解釈(正常値と異常値) 看護記録の方法 報告の方法	倉元
6	バイタルサイン測定	バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)演習	倉元
7	バイタルサイン測定	バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)技術試験	倉元
8	系統別 フィジカルアセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメント	柴岡
9	系統別 フィジカルアセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメント(演習)	柴岡
10	系統別 フィジカルアセスメント	循環器系・リンパ系のフィジカルアセスメント	柴岡
11	系統別 フィジカルアセスメント	循環器系・リンパ系のフィジカルアセスメント(演習)	柴岡
12	系統別 フィジカルアセスメント	乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 腹部のフィジカルアセスメント	柴岡
13	系統別 フィジカルアセスメント	筋・骨格器系・肛門のフィジカルアセスメント	柴岡
14	系統別 フィジカルアセスメント	頭部・顔面・頤部のフィジカルアセスメント 神経系のフィジカルアセスメント	柴岡
15	系統別 フィジカルアセスメント	シミュレーション	柴岡

評価	客観式試験(倉元20点・柴岡50点/70点)、技術試験(30点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)

参考図書等	
留 意 事 項	看護技術習得のため、バイタルサイン測定においては、技術試験を行う。 再試験時は客観試験のみでの評価とする

授 業 科 目 名		授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
診療の補助技術		講義 演習	2単位	45時間	2年通年	末廣 ハル・大庭 奈未代・阪元 利恵
実務経験のある教員による科目						
授 業 概 要						
診療における援助に関連した基礎的知識を学ぶ。検査や治療過程における援助に必要な看護の基礎的知識を理解し、生活援助技術での学修と関連させながら標準予防策から無菌操作、創傷処置、採血、与薬、注射、酸素ボンベの取り扱いや吸引・吸入の技術を学ぶ。 これらの技術は苦痛を伴うことが多い。そこを考慮しながら、健康課題のある対象者への安全面や苦痛緩和に配慮した基本的な診療援助技術を学ぶ科目である。						
到 達 目 標						
1. 既習の皮膚の構造と機能に基づき、創傷の治癒過程を述べることができる 2. 創傷の管理・感染予防の推進・呼吸を楽にするための知識と技術を理解し、原理・原則に基づいた実践ができる 3. 検査・治療実践時の介助方法、検体採取方法、実施時の注意点が説明できる 4. 与薬の原則を守って、経口内に与薬ができる 5. 筋肉注射、静脈採血、血糖測定をシミュレーターを用いて実施できる						
事前学習・事後学習						
事前学習: 該当箇所を予習して授業に望む 事後学習: 当該のテーマに沿って講義から復習・まとめをする						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	皮膚・創傷を管理する技術	1. 皮膚・創傷を管理する技術 ①創傷管理するための基礎知識 ②褥瘡予防	末廣
2		1. 創傷処置演習 ①創傷の種類・創洗浄と創保護 ②演習	
3		②演習 包帯法(環行帯 麦穂帯 亀甲帯 帽状帯) 三角巾	阪元
4	感染予防を推進する技術	1. 感染とその予防の基礎知識 2. 感染経路別予防策 3. 医療施設における感染管理 4. 感染を予防するためのプロセス	大庭
5		1. 洗浄・消毒・滅菌 2. 感染性廃棄物の取り扱い 3. 針刺し防止対策	
6		1. 滅菌物の取り扱い(滅菌パックの開け方 創傷処置) 2. 滅菌手袋の着脱	阪元
7	呼吸を楽にする技術	1. 酸素療法(酸素吸入療法) ①酸素療法の基礎知識 ・酸素供給システムと酸素流量計 ・酸素投与方法と特徴 ②演習: 酸素療法の実際(中央配管・酸素ボンベ・酸素残量の計算方法) 2. 排痰ケア: 体位ドレナージ 咳嗽介助 ハフティング 3. 吸引 ①吸引の基礎知識 ②演習: 口腔内吸引	阪元
8			
9			
10			
11			
12	検査・治療を 安全かつ正確に行う技術	1. 症状・生体機能管理技術 ①症状・生体機能管理技術の基礎知識 ②検体検査 ③生体情報のモニタリング 2. 診察・検査・処置における技術	阪元
13			阪元
14		1. 演習: 静脈血採血 ①採血部位の選択 ②採血を避ける部位 ③おもな採血合併症とその予防 ④シミュレーターを活用した静脈血採血実施	
15			
16			
17	与薬・輸血を 安全かつ正確に行う技術	1. 与薬の基礎知識 ①薬物の基本的性質 ②看護師の役割(正しい与薬・毒薬、劇薬、麻薬の管理) 2. 経口与薬・口腔内与薬 3. 吸入 4. 点眼 5. 点鼻 6. 経皮的与薬 7. 直腸内与薬 8. 注射 ①注射の基礎知識 ②注射の準備 ③注射の種類 9. 輸血管理 ①輸血管理の基礎知識 ②輸血療法の種類 ③輸血による副作用	阪元
18			
19			
20			
21		1. 演習 ①注射剤の準備 ②皮下注射 ③筋肉内注射 ④点滴静脈内注射の準備(ミキシング・プライミング) ⑤点滴静脈内注射	阪元
22			

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
23	まとめ	授業の振り返り	阪元

評 価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
参考図書等	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版（医学書院）
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
看護過程	講義 演習	1単位	30時間	1年通年	山本 美紀
実務経験のある教員による科目	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授 業 概 要
看護を科学的に実践するために必要な問題解決思考の基本を学ぶ。看護の対象となる人間の健康上の問題を明らかにし、問題解決に向けた援助を提供するためのアセスメント、問題の明確化、計画、実施、評価の看護過程の方法を学ぶ。看護実践においては対象を全人的に理解することが必要である。 そのためには、どのように対象を捉えるか、全体的に対象をイメージしながら理解できるように、事例を用いた看護過程の展開を行う。シミュレーションにより臨地に近い状態で評価ができるように学修する。

到 達 目 標
1. 対象の理解および看護を実践するために必要な情報収集、問題の明確化、計画立案、実施、評価について説明できる。 2. 肺炎の患者の紙面事例を用いた(実施・評価を除く)一連の看護過程の展開を行うことができる。 3. 看護診断について説明できる。 4. 看護過程を使う意義について考えることができる。

事前学習・事後学習						
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む。 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				○

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	看護過程とは	1. 看護過程の意義・必要性について 2. 問題解決課程と看護過程の関係性について 3. 看護過程の構成要素	山本
2	アセスメント①	1. アセスメントとは・アセスメントの2つの段階 2. 情報収集の枠組み・方法・情報の種類	山本
3	アセスメント②	1. 情報の分析方法・判断基準・内容 2. 全体像の把握・統合について	山本
4	問題の明確化① (看護診断)	1. 診断(看護問題)とは 2. 診断(看護問題)の種類・明示方法	山本
5	問題の明確化② (看護診断)	1. 共同問題とは 2. 看護問題の優先順位	山本
6	看護計画①	1. 期待される成果の明確化(看護目標・長期目標・短期目標)	山本
7	看護計画②	1. 看護計画の具体的立案方法	山本
8	実施	1. 実施の流れについて 2. 実施と記録について	山本
9	評価 看護記録	1. 評価について 2. 看護記録について(SOAP法、フォーカスチャータリング)	山本
10	看護過程まとめ 看護過程演習について	漢語過程まとめ 漢語過程演習について	山本
11	看護過程演習①	肺炎患者の紙面事例の演習(情報収集・分析)	山本
12	看護過程演習②	肺炎患者の紙面事例の演習(看護問題の明確化・優先順位の決定・看護計画の立案)	山本
13	看護過程演習③	肺炎患者の紙面事例の演習(看護計画の立案・看護計画を実施に移す)	山本
14	看護過程演習④	肺炎患者の紙面事例の演習まとめ	山本
15	まとめ	授業の振り返り	山本

評 価	客観式試験(80点)、課題(20点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院)

参考図書等	看護診断ハンドブック（医学書院）
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
看護研究の基礎	講義	1単位	15時間	2年後期	永野 薫
実務経験のある教員による科目					

授 業 概 要						
看護の発展は研究によって支えられている。本科目では看護研究を行う意義、方法、倫理的配慮など看護研究の基礎的知識を学び研究に対する理解を深め、3年時に行う事例研究(ケーススタディ)につなげるように研究の基本について学修する。関心のあるテーマに関する文献のクリティークを行い、研究デザインや理論・概念枠組み・データ収集・測定用具・分析方法・分析結果の解釈について概説する。						
到 達 目 標						
1. 看護研究の概要を説明できる 2. 看護研究の意義を説明できる 3. 研究計画書作成方法を説明できる 4. 質的・量的研究について概要を説明できる 5. 文献検索ができ、クリティークの方法を説明できる 6. 看護研究における倫理的配慮について説明できる						
事前学習・事後学習						
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						◎

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	授業ガイダンス・看護研究の概要	①看護研究の意義と歴史の変遷 ②看護研究の種類 ③研究テーマの見つけ方	永野
2	文献検索とクリティーク	①文献・オンラインデータベースを用いた検索 ②クリティーク	永野
3	看護研究における倫理的配慮	①倫理指針 ②著作権と引用	永野
4	研究デザインと研究計画	①看護研究に有用な3つの研究デザイン ②研究計画書の作成	永野
5	分析の基礎知識	①バイアスについて ②看護研究で使用する統計分析	永野
6	研究成果の発表方法	①効果的な結果の示し方 ②論文執筆のポイント ③効果的なプレゼンテーション	永野
7	事例研究の概要	①事例研究の意義と方法	永野
8	まとめ	授業の振り返り	永野

評 価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院)
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
地域看護概論	講義	1単位	15時間	1年後期	竹迫 みどり
実務経験のある教員による科目		臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要
近年、少子高齢社会の進行と疾病構造の変化、住み慣れた地域で自分らしく生活したいという人々のニーズの高まりから、看護実践の場が医療機関から地域へと広がり、家族や地域住民、多様な専門職と連携して看護を行うようになった。 本科目では、人々が暮らす「地域」と人々の「暮らし」を理解し、暮らしと健康との関連、求められる看護の役割を学ぶ。また、地域・在宅看護の対象となる人々と家族を地域の特性やライフステージ、健康レベル、障害等の多様な視点から理解する。さらに地域・在宅看護と関連が深い法制度について紹介し、今後の地域・在宅看護論の導入を図る。

到 達 目 標
1. 人々の暮らしと健康との関係性、地域・在宅看護の役割について説明できる。 2. 地域の定義と多様性、システム理論について説明できる。 3. 地域包括ケアシステムと地域共生社会について説明できる。 4. 地域やライフステージからみた地域・在宅看護の特徴について説明できる。 5. 健康レベルや疾患・障害からみた地域・在宅看護の特徴について説明できる。 6. 家族の変化と現状、家族のライフステージに応じた地域・在宅看護について説明できる。 7. 地域・在宅看護に関連する社会資源について説明できる。

事前学習・事後学習
事前学習:単元の内容についてテキスト、参考図書等から予習し、事前課題に取り組む 事後学習:授業の内容について復習する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎		○	◎	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	授業ガイダンス 人々の暮らしと健康	暮らしとは何か、暮らしと健康の関係、健康の多様性、健康をとらえる視点 求められる看護の役割	竹迫
2	地域の理解	地域の定義と多様性、システム理論	竹迫
3	地域包括ケアシステムと地域共生社会	地域包括ケアシステムとは？ システムの構成要素、システムを支える4つの助け 地域包括ケアシステムと地域共生社会	竹迫
4	地域やライフステージからみた看護	地域による多様性、ライフステージによる対象の多様性と看護	竹迫
5	健康レベルや疾患・障害からみた看護	健康レベルの多様性、地域に暮らす疾患・障害を持つ人々と看護	竹迫
6	家族の理解	家族の変化と現状、家族システム、家族の発達課題、介護が与える影響 家族のライフステージに応じた看護	竹迫
7	地域・在宅看護に関連する社会資源	介護保険制度、医療保険制度、障害者総合支援法、難病の福祉施策、公費負担医療 権利擁護(虐待防止、成年後見制度)	竹迫
8	まとめ、評価	まとめ、終講試験	竹迫

評 価	客観試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1（医学書院）
参考図書等	
留 意 事 項	合同授業

授 業 科 目 名		授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員	
暮らしを支える看護援助論		講義	1単位	15時間	1年後期	山本 美紀	
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う					
授 業 概 要							
地域・在宅看護は人々が生活する地域で実践され、暮らしを支えることに他ならない。暮らしを支えるとはどのようなことか、看護師の役割は何か、看護実践のために必要な知識とは何か、地域・在宅看護の現状もとらえながら理解する。地域・在宅看護の対象者は、医療ケアを求めて入院中の患者とは異なり、健康レベルや健康へのニーズも多様であるため、それらに応じた看護を学ぶ。また、災害を含めた地域でのリスクマネジメントについて学ぶ。 さらに地域での看護の提供方法は訪問看護だけでなく、通所サービスや短期入所サービス、施設サービス等の看護と広がっている。それぞれの看護の特徴と共に看々連携の重要性を理解する。さらに地域での多職種連携について学ぶ。							
到 達 目 標							
1. 暮らしの環境を整える意義と看護について説明できる。 2. 広がる看護の対象と提供方法について説明できる。 3. ライフステージに応じた地域・在宅看護について説明できる。 4. 暮らしにおけるリスクと災害を含めたリスク管理について説明できる。 5. さまざまな場で実践される地域・在宅看護について説明できる。 6. 地域・在宅看護における多職種連携について説明できる。							
事前学習・事後学習							
事前学習:単元の内容についてテキスト、参考図書等から予習し、事前課題に取り組む 事後学習:授業の内容について復習する							
対応ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎		○	◎	
回数	単 元	内 容					担 当 教 員
1	暮らしを支える地域・在宅看護	暮らしを支える看護とは、暮らしの環境を整える看護、環境を整える意義 看護師に求められるもの					山本
2	広がる看護の対象と提供方法	健康に対する人々のニーズ、看護実践方法の広がり、健康ニーズにこたえる看護					山本
3	地域での暮らしにおけるリスク	暮らしにおけるリスク、リスクの種類、安全に暮らすための援助					山本
4	地域・在宅看護でのリスクマネジメント	在宅療養中のリスクと対策、医療装具・器具への対処					山本
5	地域での災害対策	現代の災害、災害が暮らしに与える影響、地域・在宅看護と災害対策					山本
6	さまざまな地域・在宅看護実践の場	さまざまな場や職種で支える地域の暮らし、おもな地域・在宅看護実践の場					山本
7	地域・在宅看護での多職種連携	多職種連携の意義、医療職との連携、福祉職との連携、介護支援専門員との連携 多職種連携のためのネットワークづくり					山本
8	まとめ	授業の振り返り					山本
評 価		客観式試験(100点)					
テキスト		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 (医学書院)					
参考図書等							
留 意 事 項							

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
家族看護論	講義	1単位	15時間	2年前期	竹迫 みどり
実務経験のある教員による科目		臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要
健康問題を抱える対象者にとって家族は治療をサポートしたり、精神的な支えとなる重要な存在である。特に在宅療養での家族の存在は大きい。しかし、近年家族形態の変化、介護に対する考えの変化、療養者の重症化によって、家族介護の状況は大きく変化している。地域・在宅看護は療養者だけでなく、家族全体を対象しているため、家族とは何かを理解して看護する必要がある。 本科目ではわが国の家族の現状をとらえ、家族の概念や機能、家族の発達課題、家族システムについて理解し、家族への支援を具体的に学ぶ。また、介護が家族に与える影響を理解し、介入の視点や基本姿勢を理解する。さらに小児・成人・老年期の療養者を支える家族や看取りを行う家族についての看護や活用できる社会資源について学ぶ。

到 達 目 標
1. 家族看護の特徴と変遷、介護が家族に与える影響について説明できる。 2. 家族の概念や機能、家族の変化について説明できる。 3. 家族の発達課題、家族システムについて説明できる。 4. 家族看護の介入の視点、具体的援助、基本姿勢について説明できる。 5. 在宅療養中の小児を支える家族の看護について説明できる。 6. 在宅療養中の成人・老年者を支える家族の看護について説明できる。 7. 家族による看取りを支える看護について説明できる。

事前学習・事後学習						
事前学習: 単元の内容についてテキスト、参考図書等から予習し、事前課題に取り組む 事後学習: 授業の内容について復習する						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎		○	◎	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	授業ガイダンス 家族看護とは	授業ガイダンス 家族看護の特徴と変遷、ライフサイクルと家族、健康問題や介護が家族に与える影響	竹迫
2	家族の理解	家族とは？ 家族の構造と機能、現代の家族と課題	竹迫
3	家族をとらえる	家族の発達課題、家族システム、家族ストレス対処理論、家族介護を支える社会資源	竹迫
4	家族看護の実践	介入の視点、情報収集、看護師の役割、家族看護の実践、看護師の基本姿勢	竹迫
5	在宅療養中の小児を支える家族の看護	在宅療養する小児の問題と家族への影響、家族の医療ケアと介護を支える看護 活用できる社会資源	竹迫
6	在宅療養中の成人・老年者を支える 家族の看護	在宅療養する成人・老年者の問題と家族への影響、家族介護を支える看護 活用できる社会資源	竹迫
7	家族による看取りを支える看護	終末期の療養者を支える家族の問題、看取りを支える看護、活用できる社会資源 グリーフケア	竹迫
8	評価	終講試験	竹迫

評 価	客観試験(100点)
テキスト	系統別看護学講座 別巻 家族看護論
参考図書等	
留 意 事 項	合同授業

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
在宅看護概論	講義	1単位	15時間	2年前期	坪根 雅子
実務経験のある教員による科目					

授 業 概 要
1年次に地域の暮らしや暮らしと健康との関連、暮らしを支えるための社会資源の概要を学んだ。2年次は訪問看護の理解を深める。そのため、まず療養者の大半を占める高齢者と関連が深い介護保険制度について、制度の歩みやしくみ、主なサービス、利用の流れ等を学ぶ。多様なサービスがケアマネジャーを中心に多職種によって提供されており、ケアマネジメントや多職種連携の重要性を理解する。福祉用具にも実際に触れて、療養生活をイメージし、臨地実習につなげる。 訪問看護については利用の流れや主な対象者、提供される援助、緊急時の対応など病院看護との違いを理解し、訪問看護を提供する主な施設として、訪問看護ステーションについて学ぶ。グループワークによって自分達で訪問看護ステーション設立を検討し、望ましい在宅看護について考える。

到 達 目 標
1. 介護保険制度の歩みとしくみ、利用の手続き、主なサービス、自己負担について説明できる。 2. ケアマネジメントと社会資源の活用について説明できる。 3. 訪問看護のしくみ、利用の流れ、提供される援助、緊急時の対応について説明できる。 4. 訪問看護ステーションの設置基準と管理者、人員、所属できる職種について説明できる。 5. 在宅で活用される福祉用具について説明できる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習:単元の内容についてテキスト、参考図書等から予習し、事前課題に取り組む 事後学習:授業の内容について復習する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		○	◎	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	授業ガイダンス 介護保険制度	授業ガイダンス、介護保険制度の歩み、保険者と被保険者、利用の手続き、自己負担、サービスの概要（居宅サービス、地域密着型サービス、施設サービス）	坪根
2	ケアマネジメントと社会資源の活用	介護保険におけるケアマネジメント、介護支援専門員の役割、サービス担当者会議 介護保険以外の社会資源	坪根
3	訪問看護制度	訪問看護とは？ 訪問看護における包括的指示、利用の流れ、提供できる援助 介護保険での訪問看護と医療保険での訪問看護、自己負担、訪問看護記録	坪根
4	訪問看護ステーション	訪問看護ステーションの設置基準、管理者、人員、所属できる職種 望ましい訪問看護とは？ 訪問看護の質の向上に向けて	坪根
5	訪問看護ステーション	訪問看護ステーションの設置基準、管理者、人員、所属できる職種 望ましい訪問看護とは？ 訪問看護の質の向上に向けて	坪根
6	福祉用具の活用	福祉用具の実際、福祉用具の特徴、利用の流れ	坪根
7	福祉用具の活用	福祉用具の実際、福祉用具の特徴、利用の流れ	坪根
8	まとめ、評価	まとめ、終講試験	坪根

評 価	客観試験(100点)
テキスト	系統別看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1(医学書院)
参考図書等	
留 意 事 項	合同授業

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
在宅看護援助論	講義 演習	1単位	30時間	2年通年	坪根 雅子・竹迫 みどり
実務経験のある教員による科目					

授 業 概 要

訪問看護は居宅で実践される。本科目ではそのための心構えや望ましい接遇・マナーを演習(ロールプレイ)を通して学び、訪問看護を具体的にイメージする。また、安全な療養環境の整備や在宅での生活援助、多職種連携など医療施設とは異なる在宅看護の特徴を理解する。医療ケアについては看護師だけでなく本人・家族も行うため、セルフケア自立に向けての指導や緊急時の対処について学ぶ。
さらに訪問看護でのケアマネジメントと多職種連携の実践を踏まえて、認知症高齢者や難病療養者、医療器械装着中の療養者、がん末期療養者への訪問看護の特徴と活用できる社会資源を学ぶ。

到 達 目 標

1. 訪問看護での望ましいコミュニケーション、接遇・マナーについて説明できる。
2. 安全な療養環境と整備のための社会資源について述べるができる。
3. 在宅での生活援助と福祉用具について説明できる。
4. 在宅での医療ケアと緊急時の対処について説明できる。
5. 訪問看護でのケアマネジメントと多職種連携について説明できる。
6. 認知症高齢者への訪問看護と活用できる社会資源について説明できる。
7. 難病療養者への訪問看護と活用できる社会資源について説明できる。
8. 医療器械装着中の療養者への訪問看護と活用できる社会資源について説明できる。
9. がん末期療養者への訪問看護と活用できる社会資源について説明できる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習:単元の内容についてテキスト、参考図書等から予習し、事前課題に取り組む。
事後学習:授業の内容について復習する。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎		○	◎	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	在宅看護の心構え	在宅療養への理解、パートナーシップを築く、コミュニケーションの重要性 望ましい接遇・マナー	竹迫
2	訪問看護演習	デモンストレーション、演習(ロールプレイ)、望ましい在宅看護での接遇とは	竹迫
3	安全な療養環境の整備	在宅療養でのリスク、安全な療養環境とは？ 整備のための社会資源(介護保険の福祉用具、住宅改修)	竹迫
4	在宅での食事援助	食生活・嚥下へのアセスメント、誤嚥予防、経管栄養、中心静脈栄養	竹迫
5	在宅での排泄援助	排便・排尿への援助、居宅で使用する排泄用具とサービスの活用 ストーマ(パウチの支給含む)	竹迫
6	在宅での清潔技術、褥瘡予防、与薬管理	入浴に関する福祉用具、皮膚トラブルとスキンケア、褥瘡予防、褥瘡の発生要因の アセスメント、望ましい姿勢と体位、褥瘡ケア、在宅での与薬管理	竹迫
7	在宅酸素療法中の療養者への看護	在宅酸素療養(HOT)の目的、対象者、保険適応基準、機器の自己管理 トラブルと対処、消耗品(酸素カニューラ)の手配	竹迫
8	在宅人工呼吸療法中の療養者への看護	NPPVとTPPV、それぞれの対象者、気管カニューレの管理、痰吸引、トラブルと対処、 医療機器の管理と操作指導、災害への備え	竹迫
9	ケアマネジメントの実践	ケアマネジメントの実践とポイント	坪根
10	ケアマネジメントの実践	ケアマネジメントの実践とポイント	坪根
11	訪問看護と多他職種連携	医師との連携、ケアマネジャーとの連携、介護職との連携、行政・保健師との連携 看護師の役割	坪根
12	認知症高齢者への訪問看護	認知症高齢者の特徴、認知症高齢者を支える社会資源、訪問看護の特徴 高齢者の虐待防止、成年後見制度	坪根
13	難病療養者への訪問看護	パーキンソン病と療養者の特徴、難病療養者を支える社会資源、訪問看護の特徴 公費負担医療、指定難病	坪根
14	医療器械装着中の療養者への訪問看護	COPDと療養者の特徴、医療物品の確保、HOT療養者を支える社会資源 訪問看護の特徴	坪根

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
15	がん末期療養者への訪問看護	がん末期療養者の特徴、在宅ターミナルケア、看取りとは？ 訪問看護の特徴 アドバンスケアプランニング(ACP)	坪根
評 価		客観試験(100点)	
テキスト		系統別看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 (医学書院)	
参考図書等			
留 意 事 項		合同授業	

授 業 科 目 名		授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員	
在宅看護演習		講義 演習	1単位	30時間	2年後期	山本 美紀	
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う					
授 業 概 要							
在宅看護の対象は地域で暮らすあらゆる健康段階の人々である。様々な健康レベルの療養者と家族が地域でどう過ごしたいかを尊重し、フォーマル・インフォーマルな社会資源と協働して生活を支える。本科目では地域で暮らす人々の健康な時期から、病を得て在宅療養を開始する移行期、在宅療養の慢性期、急性増悪期、終末期の看取りまでの看護について具体的に学ぶ。また、後遺症を抱えて療養する高齢者と医療ケア児、難病療養者の事例で、訪問看護のポイントや活用できる社会資源について学ぶ。それらの学びをもとに在宅での看護過程展開のポイントを理解し、事例での看護過程展開(情報整理、観察計画立案、在宅療養マップ作成)を行う。							
到 達 目 標							
1. 在宅療養各期の看護について説明できる。 2. 後遺症を抱える高齢者の訪問看護のポイントと活用できる社会資源について説明できる。 3. 医療ケア児の訪問看護のポイントと活用できる社会資源について説明できる。 4. 難病療養者の訪問看護のポイントと活用できる社会資源について説明できる。 5. 在宅での看護過程展開のポイントが説明できる。 6. 事例での看護過程展開ができる。(情報整理、観察計画立案、在宅療養マップ作成)							
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習							
事前学習:単元の内容についてテキスト、参考図書等から予習し、事前課題に取り組む。 事後学習:授業の内容について復習する。							
対応ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○		○	◎	
回数	単 元	内 容				担 当 教 員	
1	授業ガイダンス 健康な時期・在宅移行期の看護①	授業ガイダンス 健康な時期の療養者と看護、在宅療養の準備期・移行期の療養者と看護				山本	
2	健康な時期・在宅移行期の看護②	健康な時期の療養者と看護、在宅療養の準備期・移行期の療養者と看護				山本	
3	慢性期～終末期の看護	在宅療養の慢性期から急性増悪期、終末期の療養者の特徴と看護				山本	
4	脳卒中療養者の在宅看護①	脳卒中の後遺症、安全な療養環境の整備、転倒予防・誤嚥予防への方策				山本	
5	脳卒中療養者の在宅看護②	家族の介護負担、訪問看護のポイント、活用できる社会資源、多職種との連携				山本	
6	医療ケア児の在宅看護①	医療ケア児とは、在宅で実践される医療ケア、医療ケア児の抱える問題				山本	
7	医療ケア児の在宅看護②	児童のケアに伴う家族への影響、訪問看護のポイント、活用できる社会資源				山本	
	在宅での看護過程展開のポイント①	療養環境のアセスメント、家族関係・介護力のアセスメント、ニーズのとらえ方 情報収集のポイント、				山本	
	在宅での看護過程展開のポイント②	療養上の問題、看護計画、ケアプランとの整合性、多職種の連携				山本	
8	ALS療養者の看護①	筋萎縮性側索硬化症(ALS)療養者の状況、セルフケア援助、嚥下 困難・構音障害・呼吸困難への援助、不安の緩和				山本	
9	ALS療養者の看護②	家族の介護負担、活用できる社会資源、延命処置についての意思決定				山本	
12	看護過程展開①	事例紹介(ALS事例)、情報整理、観察計画立案				山本	
13	看護過程展開②	療養上の問題の明確化、在宅療養マップの作成				山本	
14	看護過程展開③	在宅療養マップ作成				山本	
15	看護過程展開④ 地域・在宅看護の展望	看護過程展開発表会、まとめ、地域・在宅看護の展望(各地の取り組み例) ＊看護過程展開レポートは提出				山本	

評 価	客観式試験と提出レポートの合計(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 (医学書院)
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
成人看護学概論	講義 演習	1単位	30時間	1年後期	永野 薫
実務経験のある教員による科目					

授 業 概 要
成人期は人生のライフサイクルの中で身体的、精神的に安定し、社会的には大きな役割や責任を担う時期である。青年期から向老期まで発達段階を経る中で、ライフイベントも多く、生活を営み、仕事を持ち働き、社会的責任も大きくなり、成人期特有の健康問題も生じる。このような成人期の特徴を理解し、成人期にある対象の健康レベルに応じた主要な理論や概念、各期の看護のあり方、保健・医療・福祉の政策について学修する。

到 達 目 標
1. 成人期のライフイベントが生活に及ぼす影響について説明できる 2. 成人期の特徴と特有の健康問題について説明できる 3. 成人期の健康レベルに応じた看護に必要な概念や理論について説明できる

事前学習・事後学習						
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎	○		◎	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	成人の生活と健康	成人期の発達の特徴・成人の生活と環境	永野
2	成人の生活と健康	保健・医療・福祉システム	永野
3	成人への看護アプローチの基本	行動変容を促進する看護	永野
4	成人への看護アプローチの基本	看護におけるマネジメント・意思決定支援	永野
5	成人の健康レベル、状態に応じた看護	ヘルスプロモーションと看護	永野
6	健康を脅かす要因と看護	ライフスタイルと健康問題・生活行動がもたらす健康問題と予防	永野
7	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	急性期にある人の医療と特徴	永野
8	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	急性期にある人の看護	永野
9	慢性病とともに生きる人を支える看護	慢性病を持つ人の特徴	永野
10	慢性病とともに生きる人を支える看護	セルフケア・セルフマネジメントへの支援	永野
11	障害がある人の生活とリハビリテーション	健康の各段階におけるリハビリテーションと看護	永野
12	人生の最後のときを支える看護	終末期における医療	永野
13	人生の最後のときを支える看護	終末期を支える看護	永野
14	さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援	療養の場の移行を支える看護アプローチ	永野
15	新たな治療法、先端医療と看護	移植・再生医療と患者・家族の看護	永野

評 価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕 成人看護学総論 (医学書院)

参考図書等	国民衛生の動向
留 意 事 項	

授 業 科 目 名		授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員	
成人看護学急性期援助論		講義 演習	1単位	30時間	2年前期	松本 隆・伊藤 七重	
実務経験のある教員による科目							
授 業 概 要							
急性期看護の概念および特徴を理解し、周手術期および急性状況にある患者と家族の看護について学ぶ。成人期にある人とその家族の発達段階、身体的、心理的、社会的な特徴を総合的に理解し、周手術期の対象の術前・中・後・回復期を通して、身体侵襲の予測、苦痛緩和、社会生活への適応に向けた看護実践のための基礎的知識を修得する。また、急性状況にある患者への看護援助を行うための基本的な問題解決過程と技術を学修する。							
到 達 目 標							
1. 急性期にある対象者の健康問題とそれが及ぼす身体的・精神的・社会的側面への影響について説明できる 2. 急性期にある対象者及び家族に対する看護についてエビデンスに基づき説明できる 3. 急性期にある対象者及び家族に対する自己決定や倫理的側面について説明できる 4. 周手術期の特徴及び看護の役割について説明できる 5. 周手術期にある患者への看護援助を行うための基本的技術を実践することができる 6. 治療の現状を理解し、必要な看護援助を説明することができる							
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習							
事前学習: 該当箇所について調べて授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う							
対応ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
回数	単 元	内 容					担 当 教 員
1	急性期にある対象の看護	急性期看護の特徴、周手術期における看護援助(術前) 手術・生体侵襲、術前アセスメント 急性の状況にある人のアセスメント(家族ケア含む)					伊藤
2	周手術期看護①	クリティカルケアの基本概念、理論					松本
3	周手術期看護②	周手術期における看護援助(術中・術直後) 麻酔が及ぼす影響、術後モニタリング、術後合併症予防と発症時の援助					伊藤
4	周手術期看護③	周手術期における看護援助(術後・回復期)、術後合併症と発症時の援助 呼吸器合併症、循環器合併症、消化器合併症、早期離床					伊藤
5	周手術期看護④	周手術期における看護援助(術後・回復期) 術後感染/縫合不全/肺血栓塞栓症・深部静脈血栓、術後せん妄、					伊藤
6	周手術期看護⑤	酸塩基平衡/各種ドレーンの管理と観察/創傷処置、術後の継続看護、退院調整					伊藤
7	消化吸収機能障害患者の看護	胃切除術を受ける患者の看護 胃切除術、消化管運動機能障害のリスク					伊藤
8	循環機能障害患者の看護①	心機能に障害を受けている患者の看護 血管内治療(PCI)バイパス、活動耐性低下、心臓リハビリテーション					伊藤
9	循環機能障害患者の看護②	演習: 循環器合併症予防と発症時の援助 循環のモニタリング(モニター心電図)、末梢循環促進ケア					伊藤
10	排泄/生殖器機能障害患者の看護	膀胱、前立腺、乳房切除術を受ける患者の看護 膀胱癌部分切除術、前立腺全摘出術、乳房切除術					伊藤
11	脳神経障害患者の看護	開頭術を受ける患者の看護 血管内治療(コイル術、r-tpなど)					伊藤
12	呼吸機能障害患者の看護①	肺切除を受ける患者の看護 肺切除術					伊藤
13	呼吸機能障害患者の看護②	演習: 呼吸器合併症予防と発症時の援助 呼吸訓練、酸素療法、吸引など					伊藤
14	救急医療における看護	救急外来・集中治療室における看護(ACLS)、関係法令					伊藤
15	まとめ	授業の振り返り					伊藤

評 価	客観式試験(伊藤:50点、田嶋:50点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 救急看護学 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 (医学書院)
参考図書等	授業中の配布資料
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
成人看護学急性期演習	講義 演習	1単位	30時間	2年通年	伊藤 七重
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要
周手術期の看護を中心に、手術侵襲からの回復を促す援助に対する看護について学修する。成人急性期援助論で修得した知識を活用して、事例を用いて看護過程展開を行い、対象の健康回復に必要な知識および状況に応じた援助方法及び家族に対する看護について学修する。また、急性の状況にある対象者へ看護援助を行うための基本的技術を修得する。看護の思考過程にそってシミュレーションを用いながら臨地に即した状況で具体的に学修する。

到 達 目 標
1. 急性期にある対象者の健康問題とそれが及ぼす身体的・精神的・社会的側面への影響について説明できる 2. 急性期にある対象者及び家族に対する看護について根拠を示して説明できる 3. 急性期にある対象者への看護の思考プロセスとスキルを習得する 4. 急性期にある対象者及び家族に対する倫理的側面を説明できる 5. 急性期にある対象者及び家族に侵襲からの回復を促す援助について実践できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習: 該当箇所について調べて授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	周手術期にある患者の看護過程 胃がん①	事例提示: 全身麻酔下で胃全摘術を受ける患者 アセスメント(個人ワーク)	伊藤
2		アセスメント(個人ワーク)	伊藤
3		紙上事例についてアセスメントをもとに関連図作成、看護問題抽出(グループワーク)	伊藤
4	胃切除術を受ける患者の看護④ 看護計画立案	看護計画立案、発表(グループワーク)	伊藤
5	胃切除術を受ける患者の看護⑤ 看護計画の実施・評価	看護計画立案に基づいた看護援助を実施し評価を行う 胃切除術後1日目のフィジカルアセスメント(シミュレーション)	伊藤
6	心筋梗塞の事例①	事例提示・アセスメント	伊藤
7	心筋梗塞の事例②	アセスメント (グループワーク)	伊藤
8	心筋梗塞の事例③	看護診断の明確化(グループワーク・発表)	伊藤
9	乳がんの事例①	事例提示・アセスメント	伊藤
10	乳がんの事例②	アセスメント (グループワーク)	伊藤
11	乳がんの事例③	看護診断の明確化(グループワーク・発表)	伊藤
12	救命救急処置の基礎知識 心肺蘇生法	救急対応の考え方 救急・急変時における初期対応 トリアージ 心肺蘇生法の基礎知識	伊藤
13	一次救命処置の実践	一次救命処置(演習)	伊藤
14	一次救命処置の実践	一次救命処置(演習)	伊藤
15	まとめ	急性期にある成人の看護振り返り	伊藤

評 価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 救急看護学 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 (医学書院)
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名		授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員	
成人看護学慢性期援助論		講義 演習	1単位	30時間	2年前期	柴岡 沙也加・藤野 恵美	
実務経験のある教員による科目							
授 業 概 要							
人体の構造と機能学、健康障害と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、成人看護学概論と関連させながら、健康障害の経過としての慢性期(回復期を含む)の概念および特徴について理解し、慢性期にある成人期の対象者に見られる主な健康障害への援助方法や主要な症状についての看護アプローチの方法について学修する。慢性期は生活の再構築やセルフマネジメントへの支援が不可欠なことから、対象者の身体的・精神的・社会的変化を考慮しながら対象への看護アプローチの方法についての思考プロセスを修得する。看護における臨床推論や症状マネジメントの考え方について演習を通して学ぶ。							
到 達 目 標							
1. 慢性期にある対象者の健康問題とそれが及ぼす身体的・精神的・社会的側面への影響について説明できる 2. 慢性期にある対象者及び家族に対する看護について根拠を示して説明できる 3. 慢性期にある対象者及び家族に対する自己決定や倫理的側面について説明できる 4. 慢性期にある対象者及び家族にセルフマネジメントを促す援助について説明できる 5. 疾患によって生じる健康課題への支援方法や不快症状のマネジメント方法について説明できる							
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習							
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする							
対応ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎	○		○	
回数	単 元	内 容					担 当 教 員
1	回復期・慢性期看護とは 健康管理の必要な対象への アプローチ	授業ガイダンス 慢性期(回復期)とは/慢性期疾患の概念/セルフマネジメントとは セルフケアの低下と再獲得/対処能力に影響する因子/病みの軌跡 健康管理に伴う理念・概念の理解:セルフケア・セルフマネジメントを促進する支援					柴岡
2	症状マネジメントの考え方	臨床推論と症状マネジメント					柴岡
3	慢性期(回復期)にある対象と 家族への看護	慢性期(回復期)にある対象の理解 (身体的・心理的・社会的特徴と家族の特徴治療や療養の継続的な支援と連携)					柴岡
4	対象と家族の倫理的側面と 自己決定	回復期・慢性期におこる倫理的問題と自己決定/意思決定支援					柴岡
5	脳・神経障害をもつ対象の看護 (パーキンソン病)	脳神経障害における運動障害への看護					柴岡
6	脳・神経障害と随伴症状	脳神経障害に特徴的な症状とマネジメント(GW)					柴岡
7	循環機能障害のある対象の看護 (心不全)	心不全のある人への看護					柴岡
8	循環機能障害と随伴症状	心不全に特徴的な症状とマネジメント/浮腫・息切れの評価とマネジメント(GW)					柴岡
9	がんと共に生きる①	がんと共に生きる人への看護/化学療法と看護					柴岡
10	がんと共に生きる②	がんと共に生きるセルフマネジメント支援					藤野
11	造血機能障害のある対象の看護 (悪性リンパ腫)	造血機能障害のある人への看護					柴岡
12	造血機能障害と随伴症状	造血機能障害に特徴的な症状とマネジメント/悪心・嘔吐、発熱の評価とマネジメント(GW)					柴岡
13	慢性腎不全と共に生きる①	慢性腎不全と共に生きる人への看護					柴岡
14	慢性腎不全と共に生きる②	慢性腎不全と共に生きるセルフマネジメント支援(GW)					柴岡
15	まとめ	授業の振り返り					柴岡

評 価	客観式試験(70点) 、課題レポート(30点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 がん看護学 (医学書院)
参考図書等	
留 意 事 項	事前・事後課題レポートをもとに授業を展開しますので、予習・復習が必須です。

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
成人看護学慢性期演習	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	柴岡 沙也加
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要						
成人看護学概論、成人看護学慢性期援助論の学修と関連させながら、慢性の経過をたどる健康障害の慢性期(回復期を含む)や機能障害を有する対象及びその家族に対する看護援助を学ぶ。ここでは呼吸機能障害、消化機能障害、代謝機能障害、腎機能障害、高次脳機能障害の事例から、健康障害を持つ人とその家族の援助に必要な看護について、看護の思考過程にそってシミュレーションを用いながら臨地に即した状況で具体的に学修する。						
到 達 目 標						
1. 慢性期にある対象者の健康問題とそれが及ぼす身体的・精神的・社会的側面への影響について説明できる 2. 慢性期にある対象者及び家族に対する看護について説明できる 3. 慢性期にある対象者への看護の思考プロセスとスキルを習得する 4. 慢性期にある対象者及び家族に対する倫理的側面を説明できる 5. 慢性期にある対象者及び家族にセルフマネジメントを促す援助について説明できる						
事前学習・事後学習						
事前学習: 該当箇所について調べて授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	慢性期にある対象と家族への看護 (呼吸機能障害①)	授業ガイダンス 呼吸機能障害のある人への看護(慢性閉塞性肺疾患)	柴岡
2	慢性期にある対象と家族への看護 (呼吸機能障害②)	呼吸機能障害のある人への看護/プレゼンテーション(GW)	柴岡
3	大腸がんの事例①	ストーマ増設でボディイメージの変化に対する看護/アセスメント	柴岡
4	大腸がんの事例②	ストーマケア/実施・評価	柴岡
5	大腸がんの事例③	問題の明確化 目標設定	柴岡
6	大腸がんの事例④	ボディイメージの変化に対する看護(シミュレーション)	柴岡
7	栄養代謝障害のある対象の看護①	栄養代謝障害のある人のセルフケア支援(糖尿病)/アセスメント	柴岡
8	栄養代謝障害のある対象の看護②	自己血糖測定/実施・評価	柴岡
9	栄養代謝障害のある対象の看護③	問題の明確化 目標設定	柴岡
10	栄養代謝障害のある対象の看護④	計画立案 指導案作成(GW)	柴岡
11	栄養代謝障害のある対象の看護⑤	実施(シミュレーション)/評価	柴岡
12	慢性腎不全の事例①	透析療法を受ける対象の看護/アセスメント	柴岡
13	慢性腎不全の事例②	透析療法を受ける対象の看護/プレゼンテーション(GW)	柴岡
14	高次脳機能障害のある人への看護 感覚機能障害のある人への看護	高次脳機能障害 視覚障害・聴覚障害のある人への支援(当事者と家族への支援)	柴岡
15	まとめ	授業の振り返り	柴岡

評 価	客観式試験(70点)、課題レポート(30点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13] 眼 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)
参考図書等	
留 意 事 項	事前・事後課題レポートをもとに授業を展開しますので、予習・復習が必須です。

授 業 科 目 名		授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員	
成人看護学終末期援助論		講義 演習	1単位	30時間	2年後期	坂本 智子	
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う					
授 業 概 要							
我が国はこれまでにない多死社会を迎えている。医療機関や施設あるいは居宅においてさまざまな状況にある人々がどのような最期を迎えるか、誰がどのように終末期にある対象に対して自分らしく生きることを支援していくかは大きな課題である。終末期にある対象や家族の看護について看護職者は対象の意思決定にどのように関わり、支援したらよいのかエンドオブライフにおける生命倫理やケアに活かす理論など、根拠に基づく看護実践に取り組めるように学修する。							
到 達 目 標							
1. 終末期における日本人の死のとらえかたについて説明できる 2. 死の受容過程(理論)を説明できる 3. 患者の意思決定支援について説明できる 4. 臨死期の身体的ケアについて説明できる 5. グリーフケアについて説明できる							
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習							
事前学習:該当箇所について調べて授業に臨む 事後学習:当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う							
対応ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	○	◎			
回数	単 元	内 容					担 当 教 員
1	終末期とは 死の受容のプロセス	終末期とは、キューブラーロスの死の受容のプロセス 日本人の死のとらえ方(死生観)					坂本
2	緩和ケア	緩和ケアとは、がん医療における緩和ケアの現状(海外と日本の違い) がん患者が抱える苦痛とQOL					坂本
3	意思決定支援とコミュニケーション	がん医療における意思決定支援、治療中止や療養の場の移行に対する意思決定支援					坂本
4	社会的ケア スピリチュアルケア	社会的苦痛とは、ケアの方法、スピリチュアルペインとは					坂本
5	臨死期のケア	がん終末期の症状と全身状態、臨死期、臨終後ケア エンゼルケア					坂本
6	臨死期のケア	生命倫理とは、安楽死に関する倫理的問題 エンドオブライフケアとマネジメント					坂本
7	身体症状とその治療・看護	身体症状、疼痛の治療と看護					坂本
8	身体症状とその治療・看護	不安の治療と看護、抑うつの治療と看護					坂本
9	事例(終末期にある肺がん患者)①	事例による看護過程① 肺がん患者の看護(アセスメント)					坂本
10	事例(終末期にある肺がん患者)②	事例による看護過程② 肺がん患者の看護(看護診断・目標設定・看護計画)					坂本
11	事例(終末期にある肺がん患者)③	事例による看護過程③ 肺がん患者の看護(実施)シミュレーション					坂本
12	事例(終末期にある肺がん患者)④	事例による看護過程④ 肺がん患者の看護(評価)					坂本
13	家族ケア	看護の対象としての家族 アドバンスケア・プランニング					坂本
14	臨床における振り返り	グリーフケア、デスカンファレンス					坂本
15	まとめ	授業の振り返り					坂本
評 価		客観式試験(100点)					
テキスト		系統看護学講座 別巻 緩和ケア (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 (医学書院)					
参考図書等							
留 意 事 項							

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
老年看護学概論	講義 演習	1単位	30時間	1年後期	了戒 真記子
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要
自己の高齢者観・倫理観を明らかにし、加齢に関連する諸概念と理論を学ぶことで、高齢者を身体的・心理的・社会的側面から統合的に理解し、高齢者の健康レベルに合わせた質の高い看護を提供するための基礎知識を修得する。また、老年看護学の対象者の成長と発達の過程、人口統計および社会構造の変化、災害時のニーズ、高齢者への保健・医療・福祉サービスの現状と課題を捉え、老年看護実践における専門的な看護者の役割と機能を学修する。

到 達 目 標
1. 高齢者観や倫理観を振り返り、その重要性を理解する。 2. 高齢者看護において、応用可能な理論や概念枠組みについて説明できる。 3. 日本の人口統計や社会の変化を説明できる。 4. 高齢者を支える諸制度や資源について説明できる。 5. 高齢者の死生観を理解し、高齢者看護への応用を考えることができる。 6. 高齢者の災害時ニーズについて説明できる。

事前学習・事後学習
事前学習: 該当箇所について調べて授業に臨む。 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎	○	○	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	「老い」とは何か	事前課題; 自分がイメージする自分の老年期を描いて授業前に提出する ライフサイクルからみた老年期 「老いる」ということ 「老い」のイメージ 「老いを生きる」ということ 老年期の特徴と老年期の発達課題	了戒
2	成長と発達過程からみた 高齢者看護	成長・発達過程からみた高齢者の特徴と課題 高齢者をどう見るか、高齢者の定義、 高齢者看護の定義と目的	了戒
3	老化現象の理論・概念枠組み	老化現象を説明する生理的・心理的・社会的理論の概要	了戒
4	高齢者体験①	高齢者体験実施、GWで体験をまとめる (分割)	了戒
5	高齢者体験②	高齢者体験実施後学習内容を踏まえて発表する	了戒
6	人口統計と社会構造の変化、 災害時の高齢者のニーズ	日本の高齢者を取り巻く人口統計・健康指標、災害時の高齢者のニーズ (近年の災害から)	了戒
7	超高齢化社会の理解	事前課題: 高齢者に関する気になる出来事をプレゼンテーションできるように まとめておく 超高齢化社会と社会保障・超高齢化社会の統計・ 高齢社会における保健医療福祉の動向・生活 療養の場における看護	了戒
8	高齢者を支える諸制度と 将来展望	高齢者を支える諸制度と将来	了戒
9	高齢者への心理的支援	高齢者を対象とした心理的ケア、レミニッセンスの意義、介入方法	了戒
10	高齢者看護と倫理	高齢者看護の基本 理論 倫理、倫理原則、高齢者をめぐる倫理問題	了戒
11	権利擁護	高齢者の権利擁護 擁護のための制度	了戒
12	高齢者のヘルス プロモーション	高齢者のヘルスプロモーション(高齢者の健康づくり) 高齢者の健康づくり 介護予防とフレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドローム	了戒
13	高齢者と死生観	事前学習: エンドオブライフケアを予習して、自分はどうありたいか考えておく エンドオブライフケアとは 死生観 意思決定の支援	了戒
14	世界の高齢者の 現状(生活)と課題	事前課題: 授業テーマに基づき担当する地域についてグループメンバーと 学習しプレゼンテーションできるようにまとめておく ヨーロッパの高齢者の生活と課題、 中国の高齢者の生活と課題、 日本の高齢者の生活と課題	了戒
15	まとめ	授業のまとめ	了戒

評 価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 緩和ケア (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
老年看護学援助論	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	倉元 聖子
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要						
加齢に伴う身体、心理、社会的変化の理解を基盤として、高齢者の生活とヘルスプロモーションについて理解し、健康生活を支援する基礎的知識・技術を学修する。具体的には高齢者の残存機能を活かした食事・排泄・清潔・活動と休息・移動などの生活援助技術、安全に療養できる環境を整える技術等、高齢者の個別性を尊重した効果的な看護を提供するための知識と技術を修得する。						
到 達 目 標						
1. 高齢者を対象としたヘルスプロモーションの重要性を理解し、看護介入方法を考えることができる 2. 高齢者に多い症状と健康障害、薬物・手術療法時の看護について説明できる 3. 高齢者の食生活を支える看護技術の基本を理解し実施できる 4. 嚥下障害がある高齢者の食事介助が実施できる 5. 高齢者の排泄を支える看護技術の基本を理解し実施できる 6. 高齢者の清潔と衣生活を支える看護技術の基本を理解し実施できる 7. 高齢者の活動と休息を支える看護技術の基本を理解し実施できる 8. 高齢者の歩行と移動を支える看護技術の基本を理解し実施できる						
事前学習・事後学習						
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	高齢者看護の目標と高齢者を取り巻く社会	授業ガイダンス 高齢者を対象とした看護の目標 日常生活動作能力	倉元
2	高齢者総合機能評価	高齢者認知機能評価 日常生活動作能力、高齢者認知機能評価スケール	倉元
3	高齢者のヘルスプロモーション	高齢者を対象としたヘルスプロモーション(生活習慣病予防、転倒予防など)	倉元
4	高齢者に特徴的な症状と健康障害	高齢者によくみられる症状や疾患 (脳血管障害、パーキンソン病、心不全、肺炎、水・電解質異常等)	倉元
5	高齢者に特徴的な症状・健康障害を支える看護薬物療法、手術療法、診察・検査	高齢者によくみられる症状や健康障害の看護 薬物療法、手術療法、診察・検査を受ける高齢者の看護(グループワーク)	倉元
6	高齢者に特徴的な症状・健康障害を支える看護薬物療法、手術療法、診察・検査	高齢者によくみられる症状や健康障害の看護 薬物療法、手術療法、診察・検査を受ける高齢者の看護(発表)	倉元
7	高齢者の生活を支える看護	高齢者とのコミュニケーション、食生活、住まい、経済状態など	倉元
8	食生活を支える看護技術	栄養のアセスメント、摂食・嚥下機能評価、食事に関する健康問題と看護ケア	倉元
9	嚥下機能障害のある対象の理解と看護・評価	嚥下障害のある高齢者への看護 演習: 嚥下障害の評価方法、聴診、触診、嚥下評価・栄養評価	倉元
10	嚥下障害の人の食事体験	演習: 嚥下障害のある人の食事について考える とろみ剤、嚥下食の試食と食事介助方法	倉元
11	排泄を支える看護技術	排泄機能のアセスメント、排泄に関する健康問題と看護ケア 皮膚のアセスメントと清潔に関する健康問題とケア	倉元
12	排泄を支える看護技術	演習: 腰背・腹部巻法、スキントケア(皮膚剥離)に対する援助	倉元
13	清潔・衣生活を支える看護技術 活動と休息を支える看護技術	高齢者の衣生活を支えるケア ADL・睡眠のアセスメント、活動の評価、 高齢者の活動と休息に関する健康問題と 看護ケア	倉元
14	清潔・衣生活を支える看護技術 活動と休息を支える看護技術	演習: 高齢者スーツを着用した高齢者役の学生に対して更衣の援助、歩行介助	倉元
15	高齢者看護の場とチームアプローチ まとめ	高齢者の療養を支えるチームの活動と多様な施設、医療機関における看護 授業のまとめ	倉元

評 価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
老年看護学演習	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	了戒 真記子
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要						
多様で複雑な健康問題を持ちながら生活する高齢者や、療養生活を送る高齢者に対するヘルスアセスメント技術、事例を用いて高齢者とその人を支える家族や支援者を対象とした適切な看護過程を展開する能力を修得する。シミュレーションにより高齢者の個別性を尊重し生活の質(QOL)を支える効果的な看護を提供するための知識と技術を修得する。						
到 達 目 標						
1. 高齢者を対象としたヘルスアセスメント技術を理解し実施できる 2. 高齢者を対象とした入院時ケアについて(家族や支援者を含む)理解し説明できる 3. 大腿骨頸部骨折の事例を用いた看護過程が実施できる 4. 脳梗塞の事例を用いたICF分類に基づく看護が実施できる 5. 退院時ケアについて(家族や支援者を含む)理解し説明できる						
事前学習・事後学習						
事前学習:該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習:当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎		○	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	オリエンテーション	オリエンテーション 加齢に伴う健康問題とヘルスアセスメント	了戒
2	高齢者のヘルスアセスメント1	加齢変化を考慮したヘルスアセスメント、高齢者とのコミュニケーション	了戒
3	高齢者のヘルスアセスメント2	加齢変化を考慮したヘルスアセスメント(シミュレーション)	了戒
4	入院時の看護	入院時のアセスメントとケア(シミュレーション)	了戒
5	事例による看護過程 大腿骨頸部骨折①	事例に基づく情報収集、分析解釈	了戒
6	事例による看護過程 大腿骨頸部骨折②	問題の明確化	了戒
7	事例による看護過程 大腿骨頸部骨折③	計画立案	了戒
8	事例による看護過程 大腿骨頸部骨折④	実施 (体位変換、車椅子移乗、車椅子による移動支援、杖歩行(シミュレーション))	了戒
9	事例による看護過程 大腿骨頸部骨折⑤	評価	了戒
10	事例による看護過程 脳梗塞①	事例に基づく情報収集 ICF分類による	了戒
11	事例による看護過程 脳梗塞②	生活機能(心身機能・構造、活動、参加)	了戒
12	事例による看護過程 脳梗塞③	看護計画・実施 (リハビリテーションと看護)	了戒
13	事例による看護過程 脳梗塞④	介入と評価、記録、報告	了戒
14	退院を支援する看護	退院調整支援と保健医療福祉連携、退院時看護サマリー	了戒
15	まとめ	授業のまとめ	了戒

評 価	演習・課題評価(30点)、小テスト(20点)、客観式試験(50点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
認知症看護論	講義 演習	1単位	15時間	1年後期	廣渡 大輔
実務経験のある教員による科目					

授 業 概 要
高齢社会のなか2025年には認知症患者が700万人を超えるとされ、それを支える医療や地域、施策などの知識が医療者には必要になる。本科目では認知症者および介護家族へのケアの今日的課題について理解を深め、より良い認知症ケアおよび認知症を支える共生社会構築への姿勢を学修する。具体的には認知症の理解、偏見、人権尊重、個性を尊重したケア、介護家族へのケアの在り方などについて理解を深め、対象者のQOLを支えられるよう支援できる基礎的能力を修得する。 さらに、認知症者を取り巻く多職種連携、地域包括ケアシステムと共生社会についても学修する。

到 達 目 標
1. 認知症者を取り巻く今日的課題について理解する 2. 認知症予防のケアについて説明できる 3. 認知症者の心理とニードについて理解し説明できる 4. 認知症者のアセスメントについて理解し説明できる 5. パーソンセンタードケアについて説明できる 6. 認知症者の家族介護者のケアについて理解し説明できる 7. 認知症者と支援する地域包括ケアシステムについて説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎			○	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	授業ガイダンス 認知症者を取り巻く今日的課題	最新のデータおよび研究に基づいた認知症者を取り巻く今日的課題（患者数、認知症の種類、診断・治療、など）	廣渡
2	認知症予防のケア	生活習慣などのリスクファクター、運動、音楽、知的活動などからの認知症予防に効果的なケアアプローチ	廣渡
3	認知症者の生活の実際	認知症者の生活の実際について	廣渡
4	認知症者の心理とニードアセスメント	認知症者の心理の理解、認知症者の多様なニードに対するケア 認知症者とのコミュニケーション方法、身体的アセスメント、心理的アセスメント、社会経済的アセスメント、認知機能のアセスメント	廣渡
5	認知症ケアの実際②	レクリエーション活動（運動、音楽、美術、芸術など）、タクテイルケア レミニッセンス	廣渡
6	認知症者を介護する家族ケア	介護家族の背景、健康状態、介護者のアセスメントとケアニード、ケアについて	廣渡
7	認知症者の日常生活倫理	倫理とは 認知症者の日常生活倫理	廣渡
8	評価	まとめ	山本

評 価	客観式試験（100点）
テキスト	認知症の人びとの看護 （医歯薬出版）
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
小児看護学概論	講義 演習	1単位	15時間	2年前期	平木 祥子
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要						
小児期は養育者や環境の影響を受けて、心身ともに成長・発達を急速に遂げる時期ということ、および将来の人格形成上重要な時期とすることを理解させたい。各発達期の形態的発達・機能的発達、認知・社会的発達の基本的知識を身につけるとともに、養育者との関係を理解して支援することの重要性を学ぶ。また、子どもは養育的環境で育まれる権利を有し、おとなとは同質ではないが同格の権利をもつ主体的存在であることを理解し小児看護倫理が実践できるとともに小児看護の特性を理解する。						
到 達 目 標						
1. 小児と家族を取り巻く状況や小児関連統計について説明できる 2. 小児の成長発達の特徴、および各発達段階の生活について説明できる 3. 小児の権利、および倫理原則をふまえたケアについて述べるができる						
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習						
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: プリント等復習を行う						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎	○		○	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	小児看護の特徴と理念	授業ガイダンス 小児看護の目的、小児と家族の諸統計、小児看護の課題 国際的視点からみた小児の健康問題	平木
2	子どもの成長・発達	小児期の発達段階の区分、成長・発達の一般的原則、成長・発達に影響する因子、 発達の評価	平木
3	新生児	形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達、養育および看護	平木
4	乳児	形態的特徴、身体生理の特徴、コミュニケーション機能、情緒・社会的機能、 養育および看護、遊びの支援	平木
5	幼児	形態的特徴、身体生理の特徴、コミュニケーション機能、情緒・社会的機能、 養育および看護、遊びの支援	平木
6	学童・思春期	形態的特徴、身体生理の特徴、不適応行動・症状、子どもを取り巻く諸環境、 養育および看護	平木
7	小児と家族を取り巻く状況	小児看護における倫理、児童福祉法、母子保健法、医療費の支援、予防接種、 学校保健、食育	平木
8	家族の特徴とアセスメント	子どもにとって家族とは、現代家族の特徴、家族アセスメント	平木

評 価	客観試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
小児の健康障害と看護	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	福田 美和子・秋原 美華・平木 祥子
実務経験のある教員による科目					

授 業 概 要
状況に応じた小児と家族への援助、小児期に発生頻度の高い疾患についての発生因子とメカニズムを理解し、健康障害をもつ子どもとその家族への関わり方について考えさせたい。小児期特有の特徴を理解し様々な発達段階の小児とその家族に対して、健康問題への取り組みと健康な成長発達のための援助や、母子関係の重要性から家族を含めた援助について理解する。健康障害による成長発達への影響を最小限にし、健康な成長発達が遂げられるよう、臨床の場で看護師の役割が実践できる能力を養う。
到 達 目 標
1. 小児に特有な健康障害について理解できる 2. 小児とその家族に対する病期の経過と看護について説明できる 3. 虐待を受けている、またはその可能性のある子どもと家族への支援について理解できる。 4. 永続的な問題を持つ子どもと家族への看護について理解できる。
事前学習・事後学習
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎		○	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	循環器疾患 腎・泌尿器疾患	先天性心疾患、川崎病、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、尿路感染症	福田(美)
2	免疫・アレルギー・膠原病 呼吸器疾患	食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息、急性気管支炎、肺炎、クループ症候群	福田(美)
3	神経疾患、運動器疾患 精神疾患	水頭症、二分脊椎、てんかん、熱性けいれん、脳性麻痺、先天性股関節脱臼、骨折、発達障害、摂食障害	福田(美)
4	血液疾患	特発性血小板減少性紫斑病、白血病、血友病	秋原
5	消化器疾患	口唇・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、腸重積症、鎖肛、先天性横隔膜ヘルニア、ヒルシュスプルング病、急性乳幼児下痢症、胆道閉鎖症	秋原
6	感染症	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、インフルエンザ、髄膜炎、百日咳、ポリオ、咽頭結膜熱	秋原
7	先天異常・染色体異常、 新生児疾患、代謝・内分泌疾患	新生児黄疸、乳幼児突然死症候群、新生児マススクリーニング対象疾患、1型糖尿病 低身長、神経芽腫、脳腫瘍	平木
8	病気・障害を持つ 子どもと家族の看護	病気・障害が子どもと家族に与える影響	平木
9	子どもの状況に 特徴づけられる看護①	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響 外来における子どもと家族の看護	平木
10	子どもの状況に 特徴づけられる看護②	子どもの虐待を看護 災害を受けた子どもと家族の看護	平木
11	障害のある 子どもと家族の看護	障害のある子どもと家族の看護 在宅療養中における子どもと家族の看護	平木
12	子どもにおける 疾病の経過と看護①	急性期にある子どもと家族の看護	平木
13	子どもにおける 疾病の経過と看護②	慢性期にある子どもと家族の看護	平木
14	子どもにおける 疾病の経過と看護③	終末期にある子どもと家族の看護	平木
15	子どもにおける 疾病の経過と看護④	周手術期にある子どもと家族の看護	平木

評 価	客観試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
小児看護学援助論	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	竜口 清美
実務経験のある教員による科目					

授 業 概 要						
小児看護学概論の既習知識を受けて、一人ひとりの子どもの権利を擁護し、子どもに安全で安楽な技術を提供することについて考えるとともに、子どもを主体的存在として捉え、健康障がいをもつ子どもとその家族に対する援助技術の意義と方法を理解する。言語能力が未熟な小児への観察力を身につけ、検査・処置を受ける子どもと家族への看護や対象のニーズに合わせた看護技術を習得する。また、生活経験の未熟さゆえ陥る不安や恐怖に対する、発達段階や状況に応じた関わり方を理解し看護実践能力の向上を図る。						
到 達 目 標						
1. 小児のヘルスアセスメントの方法を学び、基礎となる技術が理解できる。 2. 小児に必要な看護技術について理解できる。 3. 年齢や発達段階によっておこりやすい事故、必要な援助について理解できる。 4. ハイリスクの新生児と家族の看護の特徴が理解できる。						
事前学習・事後学習						
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	小児のヘルスアセスメント① アセスメントに必要な技術	授業ガイダンス コミュニケーション、バイタルサイン測定、身体計測	竜口
2	小児のヘルスアセスメント② 身体的アセスメント	子どものフィジカルアセスメント	竜口
3	症状を示す子どもの看護①	不機嫌、啼泣、呼吸困難、便秘	竜口
4	症状を示す子どもの看護②	けいれん、痛み、チアノーゼ	竜口
5	症状を示す子どもの看護③	嘔吐、下痢、発熱、脱水	竜口
6	症状を示す子どもの看護④	出血、貧血、ショック、意識障害	竜口
7	症状を示す子どもの看護⑤	浮腫、発疹、黄疸	竜口
8	検査・処置を受ける子どもの看護①	子どもにとっての検査・処置、薬物動態と薬用量の決定、与薬	竜口
9	検査・処置を受ける子どもの看護②	輸液管理、抑制	竜口
10	検査・処置を受ける子どもの看護③	検体採取、罨法、経管栄養	竜口
11	検査・処置を受ける子どもの看護④	清潔、排泄、呼吸症状の緩和	竜口
12	子どもの事故と看護①	子どもの事故の特徴、おもな事故・外傷と看護	竜口
13	子どもの事故と看護②	救命処置	竜口
14	ハイリスクの新生児と家族の看護①	胎外生活への適応を支える看護、家族への看護	竜口
15	ハイリスクの新生児と家族の看護②	成長・発達を支える看護(保育器の取り扱い、保育器内の児のケア)	竜口

評 価	客観試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
小児看護学演習	講義 演習	1単位	30時間	2年後期	平木 祥子
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要						
小児期の健康障害は発達課題をもった子どもの生活に大いに影響することを理解し、子どもが子どもらしく存在できるよう支援することの重要性を学ぶ。そのためには「子どもが成長発達の中で病気にかかっている」ことを知り、「病気の中で成長発達を遂げているのではない」ことの違いを理解する。そして、様々な状況にある子どもと家族への関わり手法を学び、子どもが本来もつ「生きる力」が発揮できるよう、看護師の役割が実践できる能力を養う。						
到 達 目 標						
1. 乳児期の小児と家族に健康障害が与える影響について説明し、必要な看護を考えることができる。 2. 幼児期の小児と家族に健康障害が与える影響について説明し、必要な看護を考えることができる。 3. 学童期の小児と家族に健康障害が与える影響について説明し、必要な看護を考えることができる。 4. 医療を受ける子どもへの関わり方(プレパレーション)について理解し、実践できる。						
事前学習・事後学習						
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	乳児期(7か月)の小児と家族の看護①	急性胃腸炎で入院した小児と家族の看護事例を用いて情報整理(個人)	平木
2	乳児期(7か月)の小児と家族の看護②	急性胃腸炎で入院した小児と家族の看護事例を用いてアセスメント(個人)	平木
3	乳児期(7か月)の小児と家族の看護③	問題の明確化、計画立案(指導案作成まで):GW	平木
4	乳児期(7か月)の小児と家族の看護④	指導案をもとにロールプレイ、評価	平木
5	プレパレーション	プレパレーションとは、プレパレーション実施時の原則	平木
6	幼児期(6歳)の小児と家族の看護①	気管支喘息で入院した小児と家族の看護事例を用いて情報整理(個人)	平木
7	幼児期(6歳)の小児と家族の看護②	気管支喘息で入院した小児と家族の看護事例を用いてアセスメント(個人)	平木
8	幼児期(6歳)の小児と家族の看護③	問題の明確化、計画立案(指導案作成まで):GW	平木
9	幼児期(6歳)の小児と家族の看護④	指導案をもとに媒体作成:GW	平木
10	幼児期(6歳)の小児と家族の看護⑤	プレパレーション実施、評価	平木
11	学童期(小学2年生)の小児と家族の看護①	脳性麻痺で入院した小児と家族の看護事例を用いてアセスメント(個人)	平木
12	学童期(小学2年生)の小児と家族の看護②	問題の明確化、計画立案:GW	平木
13	学童期(小学2年生)の小児と家族の看護③	計画をもとにレクリエーション計画立案:GW	平木
14	学童期(小学2年生)の小児と家族の看護④	レクリエーション実施、評価	平木
15	まとめ	まとめ	平木

評 価	客観試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名		授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員	
母性看護学概論		講義	1単位	15時間	2年前期	福田 詩子	
実務経験のある教員による科目							
授 業 概 要							
ウィメンズヘルスの主要な概念を理解し、女性の身体的、心理社会的、文化的側面に着目して女性の生涯にわたる健康支援について学ぶ。 また性と生殖のメカニズムとその意義および女性の各ライフステージ(思春期・成熟期・更年期・老年期)における健康の特徴について学び、健康支援に関する看護方法について考察する。現代社会における女性の多様なライフスタイルや家族のあり方から派生する健康課題や、健康課題を持つ女性とその家族への看護支援について多角的な視点でとらえられるように学修する。							
到 達 目 標							
1. 母性機能の発達、母性看護の役割と課題について説明できる 2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツおよびウィメンズヘルスにおける主要概念について説明できる 3. 女性の身体的、心理社会的、文化的側面を考慮し、女性の生涯を通した健康支援について考えを述べることができる 4. 女性の各ライフステージ(思春期・成熟期・更年期・老年期)における健康課題とその看護について説明できる 5. 母子保健統計から見た母子の健康問題、課題について説明できる							
事前学習・事後学習							
事前学習:各課題について調べて授業に参加する 事後学習:テーマに沿って復習する							
対応ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎				

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	授業ガイダンス・母性看護の基盤となる概念	授業ガイダンス・母性とは・セクシャリティ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、自己決定を支える支援	福田
2	女性の健康に関する社会保障制度 母子の健康に関する法律・施策	母子保健統計・家族形成に関する統計・母性に関わる法律	福田
3	母性看護の対象理解	月経周期・妊娠の成立・主な性分化疾患	福田
4	女性のライフステージ各期における看護	思春期の健康と看護（思春期女性の特徴・健康問題・看護の視点）	福田
5	女性のライフステージ各期における看護	性成熟期の健康と看護（性成熟期女性の特徴・健康問題）	福田
6	女性のライフステージ各期における看護	更年期・老年期の健康と看護 (更年期・老年期女性の特徴・健康問題と看護)	福田
7	リプロダクティブヘルスケア	性感染症・受胎調節と家族計画・喫煙と女性の健康	福田
8	まとめ	授業の振り返り	平木

評 価	客観試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論（医学書院） 看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術（メヂカルフレンド社）
参考図書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論（医学書院）
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
妊娠・分娩の看護	講義	1単位	30時間	2年前期	田中 優子
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要						
女性のライフサイクルにおける最も健康上の支援が必要な周産期の中で、妊娠・分娩期のメカニズムとその特徴および健康問題を理解する。また、妊産婦の身体的・心理的・社会的変化に適応するためのセルフケア、健康増進やマイナートラブルおよび家族への援助を学ぶ。						
到 達 目 標						
1. 妊娠・分娩期における身体的・心理的・社会的変化および健康問題について説明することができる。 2. 妊娠・分娩期におけるセルフケアと健康増進を促す看護援助について説明することができる。 3. 妊娠・分娩期にある母子の健康状態を観察・評価する為の看護技術を実施することができる。						
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習						
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎				

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	妊娠期の看護①	授業ガイダンス 妊娠期の身体的特性①(妊娠の生理・胎児の発育とその生理)	田中
2	妊娠期の看護②	妊娠期の身体的特性②(母体の生理的変化)	田中
3	妊娠期の看護③	妊娠期の心理・社会的特性	田中
4	妊娠期の看護④	妊婦と胎児のアセスメント① (妊娠とその診断、妊娠期に行う検査とその目的、胎児の発育と健康状態の診断)	田中
5	妊娠期の看護⑤	妊婦と胎児のアセスメント②(妊婦と胎児の経過診断とアセスメント)	田中
6	妊娠期の看護⑥	妊婦と家族の看護①(妊婦の健康相談・教育の実際・親になるための準備教育)	田中
7	妊娠期の看護⑦	妊娠期に行う検査の実際	田中
8	妊娠期の異常と看護①	妊娠継続期間の異常、異所性妊娠、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、多胎妊娠 ハイリスク妊婦の看護	田中
9	妊娠期の異常と看護②	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、血液型不適合妊娠、感染症、胎児機能不全	田中
10	分娩期の看護①	分娩の要素、分娩の経過	田中
11	分娩期の看護②	産婦・胎児、家族のアセスメントとその看護	田中
12	分娩期の看護③	分娩期の看護の実際(分娩第1期)	田中
13	分娩期の看護④	分娩期の看護の実際(分娩第2期～4期)	田中
14	分娩期の異常と看護	帝王切開、分娩時異常出血、児頭骨盤不均衡、陣痛の異常	田中
15	まとめ	まとめ	田中

評 価	客観式試験＋課題(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術 (メヂカルフレンド社)
参考図書等	マタニティ診断ガイドブック (医学書院)
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
産褥・新生児期の看護	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	田中 優子
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要						
産褥期の身体的変化や新しい家族を迎えることで生じる心理的变化、社会的役割の変化、健康課題について学び、母性看護の対象がセルフケア能力を高めることのできる看護について考える。また、新生児の生理やヘルスアセスメントを理解し、新生児における看護を学ぶ。						
到 達 目 標						
1. 産褥期における生理的变化および健康課題と看護が説明できる。 2. 新生児期における生理的变化と看護が説明できる。						
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習						
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎			

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	ガイダンス 産褥期における看護① ～産褥過程①～	科目ガイダンス 産褥期の身体的変化 産褥期の心理・社会的変化	田中
2	産褥期における看護② ～産褥過程②～	産褥期の心理・社会的変化	田中
3	産褥期における看護③ ～褥婦のアセスメント～	産褥経過の診断 産褥の健康状態のアセスメント	田中
4	産褥期における看護④ ～褥婦と家族の看護～	身体機能の回復および新構成変化への看護 児との関係確立への看護 育児にかかわる看護 家族関係再構築への看護	田中
5	産褥期における看護⑤ ～施設退院後の看護～	産後の生活調整 育児不安 産後の健康診査と子育て支援 職場復帰	田中
6	産褥期における看護⑥ ～産褥期の異常と看護～	子宮復古不全・産後精神障害・産褥熱・排尿障害・尿路感染・乳腺炎、帝王切開術後	田中
7	産褥期における看護技術	子宮復古のケア・授乳・抱き方	田中
8	新生児期における看護① ～新生児の生理～	新生児とは 新生児の機能(子宮外適応現象・呼吸・循環・体温)	田中
9	新生児期における看護② ～新生児の生理～	新生児の機能(消化と吸収・ビリルビン代謝と生理的黄疸・腎機能・免疫・皮膚・反射)	田中
10	新生児期における看護③ ～新生児のアセスメント～	新生児の診断 新生児の健康状態のアセスメント	田中
11	新生児期における看護④ ～新生児の看護～	出生直前の看護 出生直後から退院時までの看護 生後1ヶ月健診に向けた退院時の看護	田中
12	新生児期における看護⑤ ～新生児の異常と看護～	新生児仮死・分娩外傷・低出生体重児・高ビリルビン血症・ビタミンK欠乏性出血	田中
13	新生児期における看護技術①	新生児のフィジカルアセスメント、成熟度の観察	田中
14	新生児期における看護技術②	沐浴・おむつ交換・更衣	田中
15	まとめ	まとめ	田中

評 価	客観式試験＋課題(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術 (メヂカルフレンド社)

参考図書等	マタニティ診断ガイドブック（医学書院）
留 意 事 項	

授 業 科 目 名		授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員	
母性看護学演習		講義 演習	1単位	30時間	2年後期	田中 優子	
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う					
授 業 概 要							
正常経過をたどる妊娠期・産褥期の看護過程を通し、マタニティサイクルにある母子と家族の健康課題を捉え、育児に向けセルフケア能力を高められるような看護を学ぶ。また、新生児期にみられる健康問題、子どもを産み育てるにあたり生じる問題など特別なニーズのある母子の看護および周産期医療のシステムについて学ぶ。							
到 達 目 標							
1. 妊娠期・産褥期・新生児期の看護過程が展開できる。 2. 遺伝と不妊における健康課題について、治療および看護が説明できる。 3. 周産期医療システムと母子保健施策について説明できる。							
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習							
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする							
対応ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
回数	単 元		内 容				担 当 教 員
1	ガイダンス 母性看護における看護過程		科目ガイダンス 母性看護学における看護過程の特徴 ヘルスプロモーション型看護診断				田中
2	アセスメントとマタニティ診断		マタニティ診断の特徴				田中
3	妊娠期の看護過程①		妊娠期のマタニティ診断に必要な情報収集の視点 妊娠期のアセスメント(経過診断)				田中
4	妊娠期の看護過程②		妊娠期のアセスメント(健康生活診断)				田中
5	妊娠期の看護過程③		妊娠期の健康生活診断とケア計画				田中
6	妊娠期の看護過程④		妊娠期の経過診断・健康生活診断				田中
7	産褥期の看護過程①		産褥期のマタニティ診断に必要な情報収集の視点 産褥期のアセスメント(経過診断)				田中
8	産褥期の看護過程②		産褥期のアセスメント(健康生活診断)				田中
9	産褥期の看護過程③		産褥期の経過診断・健康生活診断				田中
10	健康教育演習①		集団指導・個人指導の特徴 健康教育案作成				田中
11	健康教育演習②		妊娠期の健康教育実施(ロールプレイング)・評価				田中
12	健康教育演習③		産褥期の健康教育実施(ロールプレイング)・評価				田中
13	周産期医療システムと 母子保健施策		母体搬送、新生児搬送、チーム医療、周産期医療ネットワーク、母子保健施策				田中
14	出生前からの リプロダクティブヘルスケア		遺伝相談、不妊治療と看護				田中
15	特別なニーズのある 母子への看護		児を亡くした褥婦・家族への看護				田中
評 価		客観式試験＋課題(100点)					
テキスト		系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術 (メヂカルフレンド社)					

参考図書等	マタニティ診断ガイドブック（医学書院）
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
精神看護学概論	講義	1単位	15時間	2年前期	高口 博史
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要
精神の健康(メンタルヘルス)の概念や心の発達と社会生活における危機的状況について学修し、精神的健康の保持増進と精神障害を持つ人々の歴史や社会的環境について学ぶ。また、こころの動き(心理学的側面)、心と身体との関連性(生物学的側面)、人々とのつながりの有り様(社会学的側面)を基盤とした精神看護の基本的な機能とケアの原則について理解することで、対象の健康の保持・増進に寄与できるように学修する。

到 達 目 標
1. 精神の健康と機能および危機的状況を理解し、看護のかかわりを説明できる。 2. 精神看護の対象とその看護について説明できる。 3. 精神保健医療福祉の歴史から倫理、権利擁護、法律の変遷と看護について説明できる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習: 事前課題は必ず学修して提出する 事後学習: 講義後は、事後学習に取り組み、指定する日時に提出する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎		○	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	精神看護学で学ぶこと	精神看護学とはなにか、精神障害をもつ人の病の体験と精神看護「心のケア」と日本社会、精神看護の課題	高口
2	精神保健の考え方	精神の健康、心身の健康に及ぼすストレスの影響 心的外傷(トラウマ)と回復、精神障害という考え方	高口
3	心のはたらきと人格の形成	心のはたらき 心のしくみと人格の発達	高口
4	関係のなかの人間	システムとしての人間関係、全体としての家族 人間と集団	高口
5	精神科での治療	精神療法、薬物療法、家族療法、電気けいれん療法、作業療法	高口
6	社会のなかの精神障害①	精神障害者の処遇と歴史	高口
7	社会のなかの精神障害②	精神保健福祉と関連法規	高口
8	まとめ	授業の振り返り	高口

評 価	終講試験(90点)、授業態度・提出物(10点)によって評価(合計100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 (医学書院)
参考図書等	系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護の展開 (医学書院) ナーシンググラフィカ 情緒発達と精神看護の基本 精神看護学① (メディカ出版) ナーシンググラフィカ 精神看護と看護の実践 精神看護学② (メディカ出版)
留意事項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
精神の健康障害と看護	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	小西 勇輝・塚田 風歩・利田 征允 岡本 直通・橋本 玲亜・平島 達朗・松尾 清隆
実務経験のある教員による科目					

授 業 概 要
近年の日本における精神科医療及び精神保健福祉サービスは急激に変化している。地域においてもその構築が求められるようになってきている。本科目では心の健康障害を取り上げ(統合失調症、気分障害、アルコール依存症、パーソナリティ障害)症状や治療について学び、さらに精神保健医療福祉制度や法規、メンタルヘルスについて理解をふかめ、よりよい精神の健康について学修する。

到 達 目 標
1. 統合失調症の症状と経過及び治療について説明できる。 2. 気分障害の症状と経過及び治療について説明できる。 3. アルコールや薬物依存症の症状と経過及び治療について説明できる。 4. 学校・職場のメンタルヘルスについて自分の意見を述べることができる。 5. 看護師のメンタルヘルスの症状と経過及び治療について説明できる。 6. 精神看護における倫理について自分の意見を述べることができる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○			○	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	精神障害者の理解と現状	精神障害とは、精神科治療の基本	小西
2	精神疾患① 統合失調症	統合失調症の症状と治療 統合失調症の発病と回復のプロセス(急性期、回復期、慢性期)	塚田
3	精神疾患② 小児の精神障害	アスペルガー症候群の症状と治療 知的障害の症状と治療	利田
4	精神疾患③ 物質関連障害	アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存の症状、治療	岡本
5	精神疾患④ パーソナリティ障害と摂食障害	パーソナリティ障害の症状、治療 摂食障害の症状、治療	橋本
6	精神疾患⑤ 気分障害	気分障害の症状と治療 軽躁、躁状態、うつと大うつ状態	平島
7	精神疾患⑥ その他の障害	不安障害、解離性障害、心身症等の症状と治療	岡本
8	精神保健医療福祉の歴史と看護①	精神障害者の処遇と歴史	松尾
9	精神保健医療福祉の歴史と看護②	精神保健福祉と関連法規	松尾
10	地域精神保健活動①	学校・職場におけるメンタルヘルス	松尾
11	地域精神保健活動②	地域におけるメンタルヘルス、ストレングスとリカバリーの概念 多様な地域保健活動ACT	松尾
12	精神看護の安全と倫理①	精神科におけるリスクマネジメント	松尾
13	精神看護の安全と倫理②	暴力の予防(CVPPP)	松尾
14	看護師のメンタルヘルス	感情労働、転移、逆転移	松尾
15	まとめ	まとめ 振り返り	松尾

評 価	客観式試験(小西:50点、松尾:50点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 (医学書院)
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名		授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員	
精神看護学援助論		講義 演習	1単位	30時間	2年前期	高口 博史	
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う					
授 業 概 要							
心に障害がある人に対応するためには対象との人間関係が重要である。そのためには自己のあり方や傾向を知る必要があります。プロセスレコードを用いて、自己の振り返りができるように学ぶ。さらに我が国における精神障害者の置かれている状況を学び、障害を持つ対象の社会復帰について、施設内リハビリテーションやコミュニティにおけるリハビリテーションについても学修する。							
到 達 目 標							
1. 患者－看護師関係について自分の意見を述べることができる。 2. プロセスレコードを通して自己理解、他者理解の必要性について説明できる。 3. 精神疾患に関する法的側面を理解できる。 4. 精神科におけるリハビリテーションの概念と地域における資源の活用について考えることができる。 5. 精神障害を持つ人や家族の病への向き合い方を理解する方法や支援を考えることができる。							
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習							
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする							
対応ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				○		○	
回数	単 元	内 容					担 当 教 員
1	精神障害と法制度	精神科領域で必要な法律と制度					高口
2	精神科リハビリテーション①	施設内リハビリテーション(作業療法、デイケアなど)					高口
3	精神科リハビリテーション②	コミュニティにおけるリハビリテーション(訪問看護、ACTの機能と役割)					高口
4	精神医療	主な精神医療について					高口
5	社会的問題	事例をもとに考える(バスジャック)					高口
6	視聴覚学習	映画「カッコーの巣の上で」					高口
7	視聴覚学習	映画「カッコーの巣の上で」					高口
8	精神科におけるリスクマネジメント①	精神科病院で起こりうるリスク					高口
9	精神科におけるリスクマネジメント②	行動制限における看護とマネジメント					高口
10	精神障害者の理解①	対象理解の重要性					高口
11	精神障害者の理解②	かたい理解とやわらかい理解					高口
12	患者－看護師関係の発展	ペプロウ、トラベルビー理論					高口
13	プロセスレコード①	プロセスレコードとは					高口
14	プロセスレコード②	プロセスレコードを書いてみる(場面の再構成)					高口
15	まとめ	授業の振り返り					高口
評 価		終講試験(90点)、授業態度、提出物(10点)、合計(100点)					
テキスト		系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 (医学書院)					

参考図書等

ナーシンググラフィカ 情緒発達と精神看護の基本 精神看護学①（メディカ出版）
ナーシンググラフィカ 精神看護と看護の実践 精神看護学②（メディカ出版）
ナーシンググラフィカ 社会福祉と社会保障 健康支援と社会保障③（メディカ出版）
ナーシンググラフィカ 看護をめぐる法と制度 健康支援と社会保障④（メディカ出版）

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
精神看護学演習	講義 演習	1単位	30時間	2年後期	高口 博史
実務経験のある教員による科目	臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授 業 概 要						
治療の場における看護を具体的に学ぶ。発達理論に基づいた対象理解や薬物療法時の観察や留意点、治療的コミュニケーションの基本を通して受容や傾聴などの基本技術を学ぶ。近年は一般診療科で治療を受ける例も増加しており、あらゆる領域で精神看護の知識や技術が求められるようになっている。精神症状や健康が日常生活に及ぼす影響と治療との関連性に着目しながらセルフケアを高めるための看護実践を学ぶ						
到 達 目 標						
1. 発達理論やBio-Psycho-Socialモデルから対象を理解できる 2. オレムのセルフケア理論の基礎知識を述べることができる。 3. 精神疾患をもつ対象者の看護過程の展開を通して、介入の必要や協働的なかわりを理解できる。 4. 対象者に合わせた治療的コミュニケーションの理論と実際を理解することができる。 5. 演習を通して認知行動療法などの精神科看護の効果的な介入方法を理解することができる。						
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習						
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	○			

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	プロセスレコードの意義と活用	プロセスレコード検討会	高口
2	家族への対応と心理教育	システムとしての家族、家族と看護	高口
3	精神科看護の具体的スキル①	心理教育	高口
4	精神科看護の具体的スキル②	CVPPP	高口
5	精神科看護の具体的スキル③	レクリエーション療法	高口
6	精神科における薬物療法	薬物療法時の看護	高口
7	治療的コミュニケーション①	コミュニケーションとは	高口
8	治療的コミュニケーション②	患者とのかかわり方	高口
9	対象理解①	対象理解の重要性	高口
10	対象理解②	かたい理解とやわらかい理解	高口
11	精神疾患をもつ対象者の看護過程①	統合失調者事例のアセスメント	高口
12	精神疾患をもつ対象者の看護過程②	統合失調者事例の看護介入	高口
13	精神疾患をもつ対象者の看護過程③	うつ病事例のアセスメント	高口
14	精神疾患をもつ対象者の看護過程④	うつ病事例の看護介入	高口
15	まとめ	授業の振り返り	高口

評 価	終講試験(90点)、授業態度(10点)、合計(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 (医学書院)

参考図書等	ナーシンググラフィカ 情緒発達と精神看護の基本 精神看護学①（メディカ出版） ナーシンググラフィカ 精神看護と看護の実践 精神看護学②（メディカ出版）
留 意 事 項	

授 業 科 目 名		授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員	
専門職連携の基礎		講義 演習	1単位	15時間	1年後期	森下 鮎美	
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う					
授 業 概 要							
保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性やチーム医療やチームケアについて学び、関連職種との協働に必要なコミュニケーション能力を身につけられるように、専門職連携についての基本的な考え方を学修する。							
到 達 目 標							
1. チーム医療・チームケアの必要性や意義を説明できる 2. 各医療専門職の種類と機能について説明できる 3. グループワークを通してメンバーとコミュニケーションを図り、自己の意見を表現できる							
事前学習・事後学習							
事前学習:該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習:該当テーマについて振り返りを行い、資料等調べて学修する							
対応ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						◎	○
回数	単 元	内 容					担 当 教 員
1	ガイダンス IPEの基礎 国際疾病分類の理念	なぜ関連職種連携教育を学ばなければならないか 専門職種間連携教育(IPE)の展開のための基礎知識 国際疾病分類(WHO ICF)の理念					森下
2	チーム医療	チーム医療のあり方 チームビルディング リーダーシップ・メンバーシップとは					森下
3	様々な医療専門職	医療専門職について調べよう					森下
4	医療専門職の種類と機能①	医事課・検査技師の役割・教育・機能					森下
5	医療専門職の種類と機能②	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の役割・教育・機能					森下
6	医療専門職の種類と機能③	臨床工学技士・放射線技師の役割・教育・機能					森下
7	医療専門職の種類と機能④	薬剤師、管理栄養士の役割・教育・機能					森下
8	まとめ	まとめ					森下
評 価		客観式試験(100点)					
テキスト		系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理 (医学書院)					
参考図書等							
留 意 事 項							

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
専門職連携の構築	講義 演習	1単位	15時間	2年後期	了戒 真記子
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要						
既習の専門職連携の基礎と関連させながら、専門職が共同とケアの質を改善するための連携について学ぶ。地域共生社会の実現のために、多様な場で暮らす、様々なライフステージ・健康レベルにある対象の健康や生活を守る保健・医療・福祉の提供にむけて、お互いの職種の特性を活かしながら、チーム医療・ケアの理念と実践の方法を理解し、患者・利用者中心の専門的サービスを提供する技能を修得する。具体的には、事例を通して、チームメンバーと協働し多職種のアプローチを尊重しながら、自職種としての意見やその根拠を明確に述べるとともに、各々の役割や責任についても学修する。						
到 達 目 標						
1. ICFの概念を活用して事例の課題を抽出することができる 2. 現実的・実践的なケア計画が立案できる 3. チームにおける自らの役割を発見・理解し、メンバーシップを発揮できる 4. 他職種の意見を尊重しながら、自職種の意見を根拠に基づいて述べることができる						
事前学習・事後学習						
事前学習:該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習:該当テーマについて振り返りを行い、資料等調べて学習する						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		○	◎	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	授業ガイダンス	授業の概要 ICF(国際生活機能分類)について ワークの進め方	了戒
2	ICFに基づく課題の明確化(アセスメント)	事例紹介、事例についての検討	了戒
3	計画立案	事例検討(目標設定、ケア計画作成)	了戒
4	評価①	各グループの発表	了戒
5	評価②	各グループの発表	了戒
6	評価③	各グループの発表	了戒
7	チーム医療における他職種の実際	退院時カンファレンス(退院支援看護師、ケアマネジャーの視点)	了戒
8	まとめ	チームマネジメントを高める技術 授業の振り返り	了戒

評 価	プレゼンテーション,課題レポート(60点)、客観式テスト(40点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 (医学書院)
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
リスクマネジメント論	講義 演習	1単位	15時間	2年後期	梶原 由美・永野 薫
実務経験のある教員による科目					

授 業 概 要
看護者は最も患者に近いところで治療に伴う処置や看護を実施することが多くあり、医療事故の当事者になる可能性が高い職業である。安全への配慮を欠くと、患者の健康を損なうだけでなく、看護職としても責務を問われることになる。看護職者は医療専門職として安全で質の高い医療を提供する責務を負っている。そのためにも医療安全に関する最近の動向を知り、医療安全に対する取り組みやその対策について知識を身につけ、安全に看護が実践できるように学習する。

到 達 目 標
1. 医療安全にかかわる最近の動向を説明できる 2. 国の医療安全への取り組みについて説明できる 3. 医療安全のための対策を説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習: 該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
					◎	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	医療安全と医療事故	医療安全対策の国内外の潮流・医療事故と看護業務	永野
2	看護事故防止の考え方	看護事故の構造・事故防止の考え方・事故発生後の傷害拡大の防止	永野
3	診療の補助の事故防止	注射業務・輸液ポンプ・輸血業務・与薬業務・経管栄養業務・チューブ管理の事故防止 看護師の労働安全衛生上の事故防止	梶原
4	組織的な医療安全管理体制	医療機関における医療安全の取り組み、チーム医療と医療安全 医療安全管理者の役割	梶原
5	療養上の世話の事故防止	転倒・転落、窒息・誤嚥、異食、入浴中の事故防止	永野
6	業務領域に共通する事故	患者間違いのおもな要因と防止	永野
7	医療安全とコミュニケーション	安全な医療・看護のための医療職間のコミュニケーション、患者・家族とのコミュニケーション	永野
8	地域における在宅療養者の安全	訪問看護師が行う医療行為における事故防止、陽圧換気療法と在宅酸素療法での安全 家庭内での様々な事故防止	永野

評 価	客観試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2] 医療安全 (医学書院)
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名		授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員	
看護管理		講義 演習	1単位	15時間	3年前期	久保石 佳子・木通 幸代・平田 昌美	
実務経験のある教員による科目							
授 業 概 要							
看護管理は看護管理者だけのものではなく、看護学生を含めてすべての看護職者が看護活動を効率的、効果的、創造的に行うために必要な能力であると言われている。看護管理とは何かを理解し、専門職業人としての看護師の役割を考え、実践しようとする姿勢を養うよう学修する。さらにリーダーシップや看護を取り巻く施策や専門性の高い看護職の養成についても学ぶ。							
到 達 目 標							
1. 看護管理とは何か理解する 2. ヒト、モノ、情報、コストのマネジメントについて説明できる 3. 看護管理に求められる能力を理解し、看護職のキャリアアップについて自分の意見を述べることができる 4. 看護におけるリーダー塩応について説明できる 5. 看護活動の根拠となる法律とその内容について説明できる							
事前学習・事後学習							
事前学習:各課題について調べて授業に参加する 事後学習:テーマに沿って復習する							
対応ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						◎	○
回数	単 元	内 容					担 当 教 員
1	看護管理とは何か	看護管理とは何か 看護管理の定義とプロセス					平田
2	看護マネジメント①	マネジメント 人材マネジメント、キャリアマネジメント、様々な人材教育					久保石
3	看護マネジメント②	看護ケアマネジメント、看護サービスマネジメント、労働環境について					久保石
4	看護マネジメント③	看護提供システム、情報マネジメント					久保石
5	看護管理に求められる能力	看護管理に求められる能力とは、セルフマネジメント能力、医療専門職者としての信頼を得るためのマナーと姿勢,リーダーシップ					平田
6	看護を取り巻く諸制度	看護職と法、看護職の教育制度、専門性の高い看護職の養成及び認定制度、看護施策					平田
7	看護管理の実際	病院における看護管理の実際					木通
8	まとめ	授業の振り返り					平田
評 価		客観試験(100点)					
テキスト							
参考図書等							
留 意 事 項							

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
災害看護学	講義 演習	1単位	15時間	2年後期	阪元 利恵・江草 真紀
実務経験のある教員による科目					

授 業 概 要
災害看護学では、災害が人々の生活や健康に及ぼす影響を理解するとともに、個人・家族・地域社会の生活の視点をベースにした災害支援活動を行うための看護の基礎知識、および災害急性期に必要な技術(トリアージ、治療、患者搬送等)について学ぶ。さらに、災害への専門職としての心身両面の備えと発生時の対応、災害による被害を最小限にとどめるため、災害各期に看護職が果たすべき役割と機能について学ぶ。

到 達 目 標
1. 災害の定義、災害の種類、災害サイクル、災害に対する社会の仕組みについて説明できる 2. 災害発生期における災害看護活動、看護体制づくりを説明できる 3. 災害時のトリアージの基本が説明できる 4. 災害サイクル各期の被災者のニーズと看護師の役割や実践活動について理解を深め、自己の考えを述べることができる 5. 災害が人々の健康に及ぼす影響と必要な看護ケアについて説明できる 6. 被災者の心理、支援者の心理について説明できる

事前学習・事後学習
事前学習:各課題について調べて授業に参加する 事後学習:テーマに沿って復習する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		◎		

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	災害医療の基礎知識	1. 授業ガイダンス	阪元
2		2. 災害看護の歩み 3. 災害医療の基礎知識 ①災害の定義 ②災害の種類と健康被害 ③災害医療の特徴 ④マスギャザリングとNBC 災害への対応 ⑤災害と情報 ⑥災害にかかわる職種間・組織間連携 ⑦災害看護と法律	
3	災害看護の基礎知識	1. 災害看護の基礎知識 ①災害看護の定義と役割 ②災害看護の対象 ③災害看護の特徴と看護活動 ④災害看護活動に必要な情報 ⑤災害看護活動におけるアセスメント 2. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 ①急性期・亜急性期 ②慢性期・復興期 ③静穏期	江草
4	災害に必要な技術	1. 災害時における医療活動の実際 DMAT活動を通じた医療救護班の活動と連携 2. 災害に必要なスキル ①トリアージ(START法)	江草
5			
6		②徒手搬送・担架搬送 ③止血・包帯法	阪元
7	被災者特性に応じた看護展開	1. 被災者特性に応じた災害看護の展開 ①子どもに対する災害看護 ②妊産婦に対する災害看護 ③高齢者に対する災害看護 ④障害者に対する災害看護 ⑤精神障害者に対する災害看護 ⑥慢性疾患患者に対する災害看護 ⑦原子力災害による被災者への看護 ⑧在留外国人に対する災害看護	阪元
8	災害とこころのケアについて	1. 災害とこころのケア ①災害がもたらす精神的影響 ②こころのケアとは ③被災者のこころのケア ④遺族のこころのケア(グリーフケア) ⑤被災救助者のこころのケア ⑥救助者のストレスとこころのケア	阪元

評 価	客観式試験
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 (医学書院)
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
国際看護学	講義 演習	1単位	15時間	2年後期	平木 祥子
実務経験のある教員による科目		臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえた臨床に即した授業・演習を行う			

授 業 概 要
グローバル化が進んだ現代では、地球上のあらゆる人々の健康問題が我々にも直接影響してくる。世界でどのような健康問題が起こっていて、人々は何に苦しんでいるのか知り、それに対して私たちに何ができるのか考えることは大切である。本科目では国際看護の概念、看護における文化、世界の健康問題、国際協力の仕組みや、国際協力における看護活動を学び、諸外国の保健医療福祉の課題を学び、国際看護に対する理解を深める。

到 達 目 標
1. 国際看護の概念と対象を説明できる。 2. 文化を考慮した看護について自分の意見を述べることができる。 3. 世界の健康問題を説明できる。 4. 国際協力の仕組みと実際を理解できる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習:テキスト「国際看護学」の該当箇所を読んで概要を把握しておく 事後学習:事前学習の要点についての振り返りを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				◎	○	

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	国際看護の概念と対象	授業ガイダンス 国際看護とは、国際看護の仕組み、国際看護の対象	平木
2	看護における文化	異文化理解と看護、文化ケアアプローチ、多文化対応能力	平木
3	世界の健康問題	人口、各国の保健指標、感染症、温暖化、紛争	平木
4	国際看護の実際①	国際看護の実際と課題①、JICA組織について	平木
5	国際看護の実際②	国際看護の実際と課題②、レポート課題「JICA九州センターでの学び」	平木
6	国際看護の実際③	国際看護の実際まとめ発表	平木
7	諸外国の保健医療福祉の課題①	アメリカ、ヨーロッパ(イギリス、フランス)、アジア(中国、韓国、フィリピン)の諸外国の医療福祉の現状と課題	平木
8	諸外国の保健医療福祉の課題②	諸外国の保健医療福祉の現状と課題についてまとめ発表 レポート課題「諸外国の保健医療福祉の現状と課題」	平木

評 価	課題レポート(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 (医学書院)
参考図書等	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 (医学書院)
留 意 事 項	

授 業 科 目 名	授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員
統合看護演習	講義 演習	1単位	30時間	3年前期	森下 鮎美
実務経験のある教員による科目	臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う				

授 業 概 要						
各分野で学修した科目や臨地実習を基本とし、複数の対象の情報から臨床で起こる事象を題材として対象の安全や優先順位を考慮した看護援助を考え、実施し、看護師に求められる能力について学ぶ。チームメンバーの一員として行動し協力できる姿勢を養い、重複課題に対応できるように学修する。						
到 達 目 標						
1. 対象の情報から適切なアセスメントをもとに安全・安楽・自立・個別性を考慮した看護援助を考え、提供するための方法を説明できる 2. 複数の対象の情報および臨床で起こる出来事を題材として優先順位を考慮した看護援助を考え、看護師に求められる能力について自分の意見を述べる ことができる 3. 看護活動において看護チームの一員としての関わりが必要であることを理解し、協同することの必要性を説明できる						
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習						
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする						
対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	○		○	◎

回数	単 元	内 容	担 当 教 員
1	看護に必要な要素	看護に必要な2つのシップ	森下
2	アンガーマネージメント	怒りのコントロールを身につける	森下
3	事例演習	看護事故防止	森下
4	事例演習	看護事故防止	森下
5	事例演習	急変て何だろう	森下
6	事例演習	臨床現場での多重課題とは	森下
7	事例演習	多重課題: ケアの優先順位	森下
8	事例演習	多重課題: ケアの優先順位	森下
9	事例演習	多重課題: タイムマネージメント	森下
10	事例演習	多重課題: タイムマネージメント	森下
11	事例演習	多重課題: 同時発生多重課題	森下
12	事例演習	多重課題: 複数受け持ち	森下
13	事例演習	多重課題: 複数受け持ち	森下
14	事例演習	多重課題: 複数受け持ち	森下
15	看護実践能力とは	看護実践能力とは何なのか考える。	森下

評 価	客観試験（100点）
テキスト	
参考図書等	
留 意 事 項	

授 業 科 目 名		授業形態	単 位	時間数	配当年次	担 当 教 員	
事例研究		講義 演習	1単位	15時間	3年通年	阪元 利恵	
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う					
授 業 概 要							
看護の発展は、研究によって支えられている。日清月歩の医療の中で、看護の本質を探求し、調査、洞察を通して対象のQOLを支え、健康に寄与できるように学修する。具体的には、自己の実践した看護場面から課題を明らかにし、科学的根拠に基づいた看護実践ができたか、文献を用いて考察し、まとめ発表を行う。							
到 達 目 標							
1. 看護研究(ケーススタディ)の概要と意義を説明できる 2. 研究計画書が作成できる 3. 文献検索ができ、必要な文献を選択し考察に活用できる 4. 看護研究(ケーススタディ)における倫理的配慮について説明できる 5. 事例をまとめて発表できる							
事前学習・事後学習							
事前学習:各課題について調べて授業に参加する 事後学習:テーマに沿って復習する							
対応ディプロマポリシー		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
回数	単 元	内 容					担 当 教 員
1	ケーススタディの進め方	事前学習:2年次に学習したケーススタディについて復習しておく 1. 今後の授業計画について 2. ケーススタディを行う際の留意点(倫理的配慮) 3. ケーススタディの進め方 4. ケーススタディの構成					阪元
2	ケーススタディの計画	事前学習:2年次に学習したケーススタディ計画書について復習しておく 1. ケーススタディ計画書 2. 原稿の設定					阪元
3	事例検討①	事例検討					阪元
4	事例検討②	事例検討					阪元
5	事例検討③	事例検討					阪元
6	事例発表①	事例発表 ・ケーススタディ原稿提出					阪元
7	事例発表②	事例発表 ・ケーススタディ原稿提出					阪元
8	まとめ	まとめ					阪元
評 価		ケーススタディの取り組み、現行提出、発表等を含め評価する。					
テキスト		系統看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院)					
参考図書等							
留 意 事 項							